

日帝下朝鮮における国家総力戦体制と朝鮮人の生活 —「皇国臣民の錬成」を中心に—

鄭在貞

1. はじめに

最近、韓国と日本では日帝下朝鮮での国家総力戦体制と朝鮮人の生活についての研究が、政治・経済・社会・文化などの各方面で活発に進められている。そして中日戦争の勃発から日本の敗戦に至る国家総力戦体制期(1937.7—45.8)に日本が朝鮮で推進した物的・人的資源の動員と皇国臣民化政策の実像などについて、大体の輪郭を把握できるようになった¹。

ただ一つ残念なことは、各事案についての従来の研究が個別的・平面的になされ、朝鮮総督府の政策と朝鮮人の生活を有機的に関連させて理解するにはやや不十分だという点である。皇国臣民化政策に対する研究に限って見ても、それが国家総力戦体制とどんな関連の下で推進され、内鮮一体が指向する皇国臣民の究極的人間像がなんであり、そのような人間を作り出すために朝鮮総督府がどんな方法を駆使したのかなどについての具体的な分析は十分ではない。特に戦争が最終段階に突入した植民地末期の状況については、さらにそうである。

私は国家総力戦体制期の皇国臣民化政策と朝鮮人の対応様相を、「錬成」というキーワードを通じて把握しようと思う。この用語は1938年前後に南次郎総督が口にしはじめ、戦時体制の強化につれてその頻度が増加したが、小学校制度の施行(1941.4.1)に際しては最高の教育目標になり、小磯国昭総督の就任(1942.5.29)以後には学生だけでなく国民すべてを国家総力戦に適合した人間型に改造する至上の政策目標となって、一世を風靡することとなった。朝鮮総督府が朝鮮青年特別錬成令を發布した(1942.10.14)すぐあと国民総力朝鮮聯盟に錬成部が設置された(1942.11.4)のは言うまでもなく、全国に労働者・農民・女性・官公吏などを訓練するための錬成機関が続々と作られた。戦況の悪化にともなって、朝鮮人の錬成は全一的に広がり部門別に深化したのである。

日本で錬成という言葉が教育の核心用語になったのは、教学刷新評議会が「教学刷新に関する答申」を発表して(1936.11)以後であった。教学刷新運動は国体明徴を学問と教育に導入したもので、祭祀・政治・教学は根本において一体不可分で、学校は国体に基づいた修錬施設であるべきであり、日本人としての自覚的修練は、しつけ・実践躬行・修養・鍛錬を通じてなされるべきである

¹ 国家総力戦下の朝鮮社会を扱った主要単行本のみ例に挙げると次の通り。

宮田節子、1985『朝鮮民衆と<皇民化>政策』未来社；최원규(崔ウォンギョ)編、1988『日帝末期과시즘과 한국사회(日帝末期ファシズムと韓国社会)』청아出版社；김민영(金ミンヨン)、1995『日帝의 朝鮮人労働力収奪研究(日帝の朝鮮人労働力収奪研究)』한울아카데미；崔由利、1997『日帝末期植民地 支配政策研究』国学資料院；김인호(金インホ)、1998『太平洋戦争期朝鮮工業研究』新書院；同、2000『植民地朝鮮經濟의 終末(植民地朝鮮經濟の終末)』新書院；郭健弘、2001、『日帝의 労働政策과 朝鮮労働者—1938~1945(日帝の労働政策と朝鮮労働者—1938~1945)』新書院；방기중(方キジュン)編、2004『日帝 과시즘 支配政策과 民衆生活(日帝ファシズム支配政策と民衆生活)』해안など。

ということなどを強調した。教学刷新評議会がこれらを総括する用語として作った言葉がまさに錬成だった。以後錬成の概念は無限大に拡大され、国家総力戦に適合した新しい人間を作る教学思想として確立され、国民生活と国家機構の隅々まで影響を及ぼすことになった²。

朝鮮総督府も日本の状況にならって、錬成という用語を好んで使用した。ただし朝鮮での錬成は朝鮮人を一段階より高い水準の朝鮮人として錬磨育成するという意味でなく、朝鮮人を日本人にするという意味だった。それも単純な日本人でなく、天皇のために物資はもちろんで身体と心をすすんで捧げることができる真の日本人、すなわち皇国臣民に改造するということを意味した。そのために朝鮮総督府は家庭・学校・部落・団体・職場・工場・軍隊をはじめとするあらゆる領域で、朝鮮人の総力戦的資質を絶えず錬磨育成する政策として「皇国臣民の錬成」を至上の目標として掲げたのである。

「皇国臣民の錬成」という言葉が朝鮮で猛威をふるった期間は4-5年に過ぎなかった。しかし、その過程を通じて朝鮮人は国家総力戦に適合した人間型として生まれ変わる経験をした。そして解放以後「皇国臣民の錬成」という話は死語になったが、その影は現在までも韓国・北朝鮮に濃厚に残っている。従って国家総動員と朝鮮人の生活を有機的に把握するためには、内鮮一体という静態的概念よりは、「皇国臣民の錬成」という動態的概念を活用することがより適切であると考える。

2. 国家総力戦と「錬成」の人間像

1) 国家総力戦の人的資源論

国家総力戦は文字通り国家のあらゆる資源、国民のあらゆる能力を結集して発揮し、戦争に没入することを意味した。そのために国家は総力戦を効率的に遂行するという名目の下、物的・人的資源の拡充・開発・動員・配置などに対して強力な統制を加えた。日本とその支配を受けた朝鮮では、国家総動員法の施行(1938.5.5)以後戦争が拡大していくにつれて国家総力戦体制も急激に強化されていった。

朝鮮総督府は中日戦争勃発(1937.7.7)直後から、朝鮮人に国家総力戦に対応するようにせまった。南総督は「国民精神作興運動と半島民衆の時局認識」というラジオ放送演説(1937.11.13)で国家総力戦と国民の覚悟について次のように述べた。

近代の戦いは、砲火相見ゆるのみの戦いではありません。国力と国力の戦であり、戦場の第一線に於ける将兵だけの戦いではなくして、国家総動員を以てする戦であります。政治に、経済に、産業に、教育に一として勝敗に関係せざるはないのであります。故に国民皆兵の精神は唯だ、銃剣を手にする軍人のみと解すべきではなく、

² 倉沢剛、1944『総力戦教育の理論』、目黒書店、269頁；竹下直之(文部省図書監修官)、1943「錬成の本義」『道義の世界観と教育』、青葉書房、168頁；教学刷新運動は国体明徴を学問と教育へ導入したもので、祭祀、政治、教学は根本において一体不可分であり、学校は国体にもとづいた修練施設でなければならず、日本人としての自覚的修練は躰、実践躬行、修養、鍛練を通じて行われるべきであることなどを強調した。日本の錬成については、寺崎昌男・戦時下教育研究会編、1988『総力戦体制と教育—皇国民〈錬成〉の理念と実践』東京大学出版会が大きく役立った。

銃後の国民も亦第一線の将兵の如く辛苦し刻苦するの覚悟を以て、其の生業に精励せなければならぬ³。

南総督は日本が今遂行している戦争は、政治・経済・産業・教育など、国家の力量を総動員して戦う総力戦であるために、後方にいる国民も前方で戦う将兵と共に軍人精神で武装して生業に刻苦勉励しなければならないと要求したのである。国家総動員政策は国家総動員法が改正された(1940.5)後、一層強化され、朝鮮のあらゆる資源は能率と動員を最優先とする戦時体制に再編されていった⁴。

ところで国家総力戦が必要とする人的資源は、物資のように効率的に動員できる道具型の人間だった。1930年代中盤、日本企画院調査官美濃口時次郎は、人的資源の量と質は、一国社会の存立懸案に役立つ能力、すなわち国家総力戦に有用な程度の人口規模、身体剛健、精神姿勢、技術水準、国防実力などによって決まると主張した⁵。そのような人的資源の具体的な姿は日本文部省が刊行した『国体ノ本義』(1937)や『臣民ノ道』(1941)などによく現れていた。彼らは高度な軍事力と労働力を支えられる身体的・精神的・科学的・技術的能力だけでなく、生まれた時から私を捨てて天皇に奉仕し国家に忠誠を尽くす態度を持っていなければならなかった。従って天皇制を基盤とする日本型国家総力戦が要求する人的資源は、八紘一宇・肇国精神という聖戦イデオロギに透徹した皇国臣民が典型だったと考えられる⁶。

朝鮮総督やその周辺の人物が口にした人的資源の概念も日本のそれと類似していた。南総督は日米開戦以後開かれた道警察部長会議(1942.5.4)で、人的資源の強化と皇国臣民の錬成に対して次のように述べた。

現下の時局に対処せんが為には人的物的諸資源を総動員すること極めて緊要なり、物的資源の開発充実亦究極する所人的資源の強化に俟たざれば到底其の目的を達成しえないのである。……国民的訓練に重点を置き国家の要請に即応する如く之を錬成して心身共に健全なる皇国臣民の育成を期せられたい⁷。

南総督は総力戦を行っている今の状況では、人的・物的資源の総動員が切実に必要だが、この目的を効率的に達成するためには、必ず人的資源の強化が先行すべきだと述べているのである。そして人的資源の強化は国家の要請に直ちに相応できる国民作り、すなわち皇国臣民の錬成を通じて成し遂げられると強調した。

小磯総督の時期は戦時体制からさらに一歩進んで、臨戦体制という用語が新聞・雑誌・講演のみならず、日常会話でも頻繁に使われる程に切迫した状況だった⁸。そして人的資源に対する要求

³ 水野直樹編、2001『朝鮮総督諭告・訓示集成5』緑蔭書房(以下『集成』5と略)、69-70頁。

⁴ 姜柄順、1941.5「国家総動員法改正에 대하여(国家総動員法改正について)」『朝光』第7巻5号、58-65頁；下川春海、「臨戦体制と三つの国民運動」『朝鮮行政』229号、1941.11、2-5頁。

⁵ 美濃口時次郎、1941『改訂増補人的資源論』、八元社、303-304頁。

⁶ 文部省、1937『国体ノ本義』、3頁、32-35頁

⁷ 『集成』5、282頁。

⁸ 下川春海、1941.11「臨戦制と三つの国民運動」『朝鮮行政』229号、2-5頁。

がより一層切実だった。彼は道知事会議(1943.4.6)席上で、決戦必勝のため国民は性・年齢・職能の区別を超越して各自の能力を最後まで傾けて、武力戦・生産戦・思想戦に奮い立つようにせよ⁹。そして記者団との定例会見(1944.2.9)では、朝鮮人2500万人は日本人口の4分の1にもなる人的資源であるために、朝鮮人の力が強いかわいまいかによって戦局に重大な影響を及ぼすから、朝鮮人は絶対至命で国家総力戦に参加せよと力説した¹⁰。

そうではあるが現実的に見ると、朝鮮人は国家総力戦に即刻動員できる人的資源ではなかった。朝鮮人は日本人と血縁・歴史・文化・能力などがあまりにも異なっている上に、天皇のために全てのものを犠牲にするという精神を持っていなかったためである。

2) 「錬成」の皇国臣民像

朝鮮総督府が朝鮮人を国家総力戦に適合した人的資源として開発し、またその価値を高めるためには、体系的な教育と訓練が必要だった。南総督は中日戦争が長期化する兆しを見せる中で開かれた道知事会議(1938.1.22)訓示で、朝鮮統治の目標が「半島の日本化」、すなわち「内鮮一体の具現」にあると明言し¹¹、その方法として陸軍特別志願兵令と第3次朝鮮教育令を公布した。彼はこれに際して発表した諭告(1938.3.4)で、

朝鮮統治ノ目標ハ斯域ノ同胞ヲシテ真個皇国臣民タルノ本質ニ徹セシメ 内鮮一体 俱ニ治平ノ慶ニ頼リ 東亜ノ事ニ処スルニアリ ……新東亜建設ニ赴ク我ガ帝国ノ重責ハ益々国民資質ノ醇化向上ヲ必須ノ時務トシテ罷マズ 乃チ此ノ国勢ニ副ヒ此ノ世運ニ応ズル途ハ 国体明徴 内鮮一体 忍苦鍛錬ノ三大教育方針ヲ徹下シテ 大国民タル志操 信念ノ錬成ヲ基幹ト為サザルベカラズ¹²

と力説した。南総督は朝鮮人を皇国臣民にし、内鮮一体を実現することが統治の目標であるが、このためには国体明徴・内鮮一体・忍苦鍛錬の教育方針に基づいて朝鮮人の国民的資質を「錬成」しなければならないと述べたのである。「錬成」はすなわち「錬成」だった。彼は道知事会議(1938.4.19)訓示で、自らの5大政綱(国体明徴、鮮満一如、教学振作、農工並進、庶政刷新)と内鮮一体を論じながらこのように述べた。

半島における国民思想の確立は現状を以て満足すべきものにあらざるは勿論なり、「鉄の最も熱したる時之を打つ」べきが如く、此の時潮好順の機運を把握して更に遺憾無きまでに之が陶冶錬成を行ひ、恰く皇国臣民たるの自覚を培養する上に一段の工夫努力を致さねばなりませぬ ……国家総動員法は将来の危局に備ふる国家的規矩であり、又国民精神総動員運動は之に魂を入れる作業に外ならない¹³

⁹ 『集成』6、193頁。

¹⁰ 『集成』6、492頁。

¹¹ 『集成』5、26-29頁。

¹² 『集成』5、5-7頁。

¹³ 『集成』5、35-55頁。

南総督は朝鮮人を皇国臣民として育成する方法を、鉄を火で熱して鍛えることにたとえて、陶冶錬成と呼んだ。朝鮮総督府が皇国臣民の錬成を制度的に後押ししたのが国家総動員法であり、これを自覚・実践するように教育・宣伝したものが国民精神総動員運動だった。南総督は国民精神総動員朝鮮連盟の後身である国民総力朝鮮連盟の総裁就任の挨拶(1940.10.16)においても、高度国防国家完成の要素として、国民思想の統一、国民訓練の徹底、生産力の極度増強を挙げるほどに、皇国臣民としての資質錬成を重視した¹⁴。

南総督が朝鮮統治の目標として前面に押し出した内鮮一体という語義は、元来朝鮮人と日本人が形も心も血も肉も一体になるということだった¹⁵。そうではあるが、実際には朝鮮人と日本人が融合して中間型の人間になることでなく、朝鮮人が一方的に日本人になることを意味した。朝鮮における国民精神総動員運動が日本と同じように挙国一致・堅引持久・尽忠報国以外に、「一視同仁に基づいた内鮮一体化と皇国臣民化の徹底」をもう一つの目標として前面に押し出したのは、このためだった¹⁶。朝鮮人に内鮮一体の理念を宣伝して回った朝鮮総督府警務局保安課長古川兼秀は、扶余で開かれた全朝鮮指導者講習会で次のように述べた。

内鮮一体の本義は新附の朝鮮同胞をして名実共に完全に忠良なる皇国臣民とせしむるということであり、朝鮮人の側から言えば真の日本人になるという点である。……内鮮一体の方針は朝鮮人に唯一の希望に満ちた指導原理であるが単純に観念と理論上の問題に終わってはならない。それが皆生活に最も不可分の関係を持つという点を明らかにし、皇国臣民錬成の実績が上がるにつれて朝鮮人の社会的地位は必然的に向上するもので、また大東亜共栄圏の建設に臨んでも東亜の他民族とは異なり日本人としてその中核体になって指導者の地位を獲得する等将来に対する光明を与えなければならない¹⁷〔韓国語訳から再日本語訳を行った一訳者〕。

古川は、内鮮一体の真の意味は、朝鮮人の皇国臣民化にあり、朝鮮人は日常の錬成を通じてどの水準の皇国臣民になるかによって将来の東アジアにおける地位が決定されると主張した。朝鮮総督府関係者が言う内鮮一体と皇国臣民は、コインの両面のようなものだが、敢えて、どちらが先かを正すならば、真の皇国臣民になってこそ内鮮一体の実効を挙げることができ、またその恩恵を享受できるというのである。国民総力朝鮮連盟の指導部はこの点をさらにはっきりと提示した。

内鮮一体の根本前提は皇国臣民化にあり、私心を捨てて公に奉仕し真に陛下の百姓だという自覚に徹することがあらゆる制度上の一体化の先決問題である。この根本前提を躬行実践せずいたずらに制度上の平等を要求してそれが一時になされないのを見て窮極の理念を誹謗するようなことは誠に非皇国臣民的な態度として純真な内鮮一体運動を阻害する蠱毒と言わざるをえない。更には内鮮一如の皇国臣民を錬成するに臨んでは民度の向上、教育の普及、人格の陶冶を必要とすることは論ずるまでもないところである¹⁸〔韓国語訳から再日本語訳

¹⁴ 『集成』5、422頁。

¹⁵ 朝鮮総督府、1940.3『朝鮮に於ける国民精神総動員』101頁。

¹⁶ 同上、31頁。

¹⁷ 国民総力朝鮮聯盟防衛指導部、1941.6『内鮮一体ノ理念其ノ具現方策要綱』(禁転載一般配付)、1-8頁。

¹⁸ 同上、6頁。

を行った一記者]。

ここで見られるように、朝鮮人が滅私奉公する天皇の民、すなわち皇国臣民になってこそ内鮮一体を成し遂げることができるのだが、朝鮮人を皇国臣民にし、内鮮一体に達するようにする方法がまさに錬成だった。小磯総督は臨戦態勢に突入して人的・物的資源の総動員がさらに切迫すると、南総督よりも皇国臣民の錬成をはるかに重視した。彼は始務式訓示(1943.1.4)で修養錬成の徹底的強化、生産戦力の決勝的増強、庶政執務の画期的刷新を3大統治方針として明言しつつ¹⁹、特に皇国臣民の錬成について次のように強調した。

皇国臣民としての錬成無き徴兵制、国体の本義に徹せざる義務教育制の如きは魂なき骸に過ぎぬのであります。特に国家総力戦たる近來戦争の特徴と致しまして、思想戦、経済戦は今後益々熾烈を極むるのでありませう、故に飽くまでも志操を固くし必勝の信念を把持して微塵も敵に乗せらるるが如き精神的間隙なきを期し、本年不幸にして起った旱水害に因る食糧不足を始め、対米英決戦完勝の為必然に予想せらるる諸物資の欠乏に耐へ、而も精神肉体両面の労務を強化して次に述べむとする生産戦力の増強を急速に敢行充実致しまする為にも、皇国臣民錬成の即時徹底と之に因る官民全員の純乎たる臣道の実践が絶対不可欠の条件たることを深く銘記せねばならぬのであります²⁰。

小磯総督は自身が意欲的に推進していた朝鮮人に対する徴兵制と義務教育制の実施さえも、皇国臣民としての錬成がなっていないなら実効をあげることができないだろうと考えた。まして国家総力戦に必要な物資と労働力の動員や生産戦力の増強は言うまでもなかった。そうして彼は皇国臣民の錬成を通じた臣道の実践が米英との戦争で勝利するために絶対的に必要だと強調した。彼は皇国臣民の錬成を朝鮮総督府政策に画龍点睛の実を保障する絶対不可欠の要素と考えたのである。

では、皇国臣民錬成の本質は何であり、それが作りだそうとする人間像は何か？ 朝鮮人の錬成運動を一糸乱れず推進していた国民総力朝鮮聯盟の運動要綱は、皇国臣民錬成の概念を次のように整理した。

皇民錬成の本旨は、皇国臣民としての心魂を養ひ、敢然国事に参ずる剛健なる心身を錬磨し、億兆一心大和協力して道義生活の実践に邁往せしむるに在る。

遍く国体本義の透徹を図り、特に青少年の錬成に力を用ひると共に、皇民の母たる婦人の自覚を促して皇国家風の確立に努め、職場の錬成を通じて職域奉公の國風を興し、各階層の指導者を錬成して率先垂範の実を挙げしめ、行を中心とする錬成と、併せて不断に国民に道義実践の生活訓練を徹底せしめんとするものである²¹。

¹⁹ 『集成』6、124頁；牧山春植、1943.4「徴兵と錬成」『朝光』第9巻4号、56頁。

²⁰ 『集成』5、181-182頁。

²¹ 国民総力朝鮮聯盟、1943.9「国民総力運動要覧」66-75頁。

上の要綱によれば、皇国臣民の錬成は各界各層の人々が日常生活で国体の本義に透徹した訓練を通じて、皇国臣民としての剛健な心魂と肉体を育み、国家のために自らを犠牲にする気風を造成することを意味した。ここで言う国体の本義は、皇道精神・肇国精神と共に日本人のアイデンティティをなすものだった。しかし、朝鮮人がこのように特殊で難しい天皇制イデオロギーを理解することはできなかった。従って朝鮮総督府は国民運動だけでなく新聞・雑誌・放送などを通じて皇国臣民錬成の正しい意味を大々的に広報しなければならなかった。朝鮮人が主要購読者だった『朝光』の特集記事は、皇道精神・肇国精神・国体の本義と錬成の関係を下記のように説明した。

皇道精神とは、肇国以来の国体精神であり、外に向かつては八紘一宇の精神、内に向かつては君民一体の精神である。八紘一宇とは、全世界の一家主義として、天下の各国が各々その処するところを得るよにして、共存共栄を図ることであるから、これは西洋流の弱肉強食の思想とは根本的に異なる。今帝国の聖戦は実にこの八紘一宇の大精神で東亜諸民族を解放して、各々その処するところを知らしめよとするものである。君民一体とは皇室と国民が一体であることを言うのであるから、君民の関係はすなわち父と息子の関係と同じである。帝国の最高原理は、実にこの独特の君民関係にあり、欧米流の権利義務関係とは根本的に異なるのである。これがすなわち帝国の肇国精神であり、国体の本義なのである。錬成とは国民がこの国体の本義を透徹して体得し、実行するようにさせるものである。錬成を通して国民は大東亜戦争が聖戦である所以を徹底的に悟るものであり、聖戦で必勝をおさめるためには滅私奉公の一念に燃え、ひたすら赤子としての本分を發揮することが臣民の道理であることを切実に悟ることである²²。

朝鮮総督府は朝鮮人に皇道精神・肇国精神・国体の本義を体得させることを錬成の最高目標とした。このことの実行のために、小磯総督の時期には朝鮮総督府に錬成課と皇国修錬院、国民総力朝鮮連盟には錬成部を設置した。それでは、朝鮮総督府が錬成を通じて作り出そうとする皇国臣民の具体的な姿はどのようなものなのか？ 国民総力朝鮮聯盟錬成部で錬成運動を陣頭指揮した別府蒼水の文を通して、錬成の意義と皇国臣民の人間像を探ってみると次のようになるだろう。

日本は神によって国の基を始められ万世一系の 天皇によって統治せられ三千年の歴史を持つ世界無比の国家である。此の国体と此の歴史の中に、而も大東亜戦と云ふ古今未曾有の聖業の御代に生まれ合せた吾々こそ真の日本人たるの自覚に立って皇国の彌栄のために殉忠の誠を盡さねばならぬ。

ところが現在この偉大なる聖業—大東亜戦争を戦ひつゝある日本人の姿を仔細に観察するとき、そこには誠に寒心に耐へぬ実情がある事を吾々は残念乍ら認めなければならぬのである。現在日本人が在る姿は決して日本人が本来在るべき姿ではないのである。現在在る姿から本来在るべき姿に立ち直らねば到底大東亜の盟主としての誇りと榮譽を担ふことは不可能である。

……在るべき日本人の姿として吾々の祖先のことが古事記の中に、日本書紀の中にそして万葉集の中に明記さ

²² 「巻頭言 錬成의 봄 (巻頭言 錬成の春)」『朝光』第9巻3号、1943.3、15頁。

れてあるのをみれば自ら釈然たるものがあらう。吾々の祖先は一切を捧げてたゞ天皇のために終始したのである。臣民の生活はたゞ天皇に仕奉るためにのみ在り得たのである。経済も産業も、芸術も皆なそうである。天皇のためには生命をさへも鴻毛の軽きにおいて顧みなかつたのである。……一切のものはたゞ天皇の御ためにのみ在り人民はいさゝかの私利私慾のないものであった。是が日本人が本来在るべき姿であった。そして又在らねばならぬ姿なのである。

ところが現在の在るところの姿はどうか？ ……自由主義、或ひは個人主義更に延いては社会主義……そうした吾が国本来の思想とは氷炭相容れざる敵性国家の思想に災ひされて日本人本来の在るべき姿は何時の間にか不知不識の間に蔽はれ失はれつゝあったのが明治、大正、昭和を通じての状態であつた。自由主義と云ひ個人主義と云ひそれ等は皆な個人の権利を主張し私利を追求し私有財産の絶対神聖を云ひ、個人的幸福を希求して、国家のそれを無視し顧みざるところのものである。

……たとひ法律によって日本帝国臣民たることが認められ日本に国籍を有してゐるにしても、それは只単なる形式的な面に於けるところの日本人であつて真に在るべき、又在らねばならぬところの日本人ではないのである。

……法規によって日本人であると認められてゐるにしても、その精神に於て日本人らしからぬ者であるとするならば丁度気の抜けたビールの様なものである。只形は整つてゐても何の役にも立たぬ存在である。否役に立たぬどころか獅子心中の虫とさへなるのである。此の気の抜けたビールを詰め更へる事によって本来のビールとしての面目を保ち価値存在たり得るのである。この詰更へこそ錬成によってなされねばならぬ。日本人は誰も日本人たるの本来の資質を有してゐるはずである。その資質を今こそ全的に発揮せずして何時の日に発揮すべき。大東亜戦で、聖業を前にして何時まで気の抜けたビールで居られようか？ かく考へるならば錬成と云ふ事の意義誠に重大なるものがあるのである。あるべき価値たらしめる契機を与へるものこそ錬成である。次にこの錬成が要請せられるところのものとは何か？ とりもなほさず大東亜戦そのものである。……国民総ての一切の生活がこの一事に副つてなされねばならぬと同様錬成も亦此の大東亜戦に注中してなされねばならぬ、否錬成によって国民の生活一切を大東亜戦に注中しなければならぬのである。

国民の一人の心の中にも自由主義的、個人主義的思想があつてはならぬ。その思想こそ利敵性の最大なるものであり、国民として最も排斥すべきところのものである。

政治も産業も経済も文化もその他国民生活の一切が錬成と云ふ契機によって真に在るべき日本的姿に於て大東亜戦へ参加しなければならぬ。物資の動員にしる、労働力の動員にしる凡て錬成と云ふ日本的在り方たらしめる契機を通じてなされない限り絵に描いた餅同様そこには真の効果は見出し得ないのである。たゞ形式的な数量を動員してみてもそれは気の抜けたビールを集列した様なもので何等の効果もない。錬成と云ふ事は当面の問題として国民生活一切をあげて真に在るべき日本的姿たらしめて以て大東亜戦を勝ち抜く態勢整備の契機なのである。

……世人は錬成と云へば深山幽谷の寺院とか、人里遠く離れた道場とか、それに類似した環境に於てのみなされるものと考えてゐる。更に又河水、海水に浴することによってなされるものと考えてゐる。勿論そうした神社の講堂とか道場とか或いは寺院に於てなされ、又清浄な海水、河水に浴する事は錬成の方法として、一層効果的ではあるに違ひないが必ずしもそうする事のみが錬成であるとは限らぬのである。錬成とは行往坐臥の間になければならぬ、産業人にとっては工場が錬成の道場であり、役人にとっては役所が、商人にとっては商店そのものが即ち道場でなければならぬ。日常生活そのものが錬成の過程である。

……吾々は現在過去数百年の長きに亘って米英よりアジアの土地に植へ付けられた自由主義個人主義と云ふ罪穢れをアジアより打払ふために大東亜戦という古今未曾有の襖祓を強行してゐるのである。アジアの罪穢れを払ひ真のアジアたらしめる、此の偉大な錬成に際して日本人一人一人がその心の中に、魂の中に非日本的罪穢れがあつてはならぬのだ。日本人一人一人が今こそ過去の一切を清算する、偉大なる錬成とをしなければならぬ。……自らが自らの魂と肉体とを錬成しなければならぬ。……襖注坐臥、一挙手一投足その間に於て常に錬成し襖祓ひをしてゆかねばならぬ²³。

冗漫ではあるが、別府の文は朝鮮総督府が推進していた皇国臣民化政策とその実行方法としての錬成の意義をわかりやすく解き明かしたと考えられる。それによれば、錬成とは朝鮮人を皇国臣民に作り変える人間改造であり、それによって創造される皇国臣民とは、靈魂と肉体は言うまでもなく、日常生活の全てを天皇のために捧げる本物の日本人ということなのである²⁴。天皇制イデオロギーに浸った日本人には皇国臣民の錬成が全くなじみの薄いものではなかった。それはあくまでも日本人のアイデンティティの中で推進された同種変移のプロジェクトであったためだ。しかしながら、朝鮮人に皇国臣民の錬成は全くなじみの薄いものだった。それは朝鮮人のアイデンティティを完全に否定して、新しい日本人、それも歴史的伝統を体現した本来の日本人に再創造する異種変改のプロジェクトだったからである。従って朝鮮人の錬成は次に検討するように強力で苛酷なものにならざるをえなかった。

3. 皇国臣民の「錬成」と朝鮮人の対応

1) 「錬成」運動の全一的展開

朝鮮総督府が全一的に推進した皇国臣民の錬成は、法令・制度・運動などのあらゆる統治政策と関連しているため、その全貌を明らかにすることは容易ではない。ここでは全国で一斉に举行された錬成日行事(その系譜は愛国日・興亜奉公日・大詔奉戴日・錬成日等につながる)に焦点を合わせて錬成運動の展開過程を概観しようと思う。

朝鮮総督府は中日戦争が勃発した直後、朝鮮中央情報委員会を作り(1937.7.22)、その事業の一環として愛国日行事を举行することにした。当時日本にもなかった愛国日行事は、学校がまず1937年9月から毎月6日に実施し、同年11月からは官公署・会社・銀行・工場・各種団体と町洞会・部落へ広がり、毎月1日または15日に举行した²⁵。その目的は忍苦持久の精神訓練を通じ、責務遂行能力を伸張するということだった²⁶。愛国日行事は神社の前で執り行うことが原則だったが、それ

²³ この引用文では、煩雑を避けるために少し縮略した部分もある。別府蒼水、「錬成に就いて」『朝光』第9巻3号、1943.3、22-26頁。

²⁴ 文部省教学局、1941『臣民ノ道』、57-71頁にもこれと類似の内容の皇国臣民錬成観が載っている。すなわち生まれた時から天皇に奉仕し、それぞれの分に応じて皇国のために喜んで尽力し、一杯の飯や一着の服でも天皇のものと感じて感謝し、遊ぶ瞬間や寝る時間も国のために捧げる真の日本人になることが皇国臣民の錬成なのである。

²⁵ 国民精神総動員忠清南道聯盟、1939「愛国日ノ一般実施ニ関スル件」『国民精神総動員聯盟要覧』102頁。

²⁶ 国民精神総動員忠清南道聯盟、1939「時局認識並国民精神総動員ニ関スル重要通牒一学校ニ於ケル愛国日設定ニ関スル件」『国民精神総動員聯盟要覧』、95頁。

がない場合には国旗掲揚台前でも実施した。行事は主に①神社・神祠参拝、②皇居遥拝、③国旗掲揚、④国歌斉唱、⑤講話、⑥皇国臣民の誓詞斉誦、⑦天皇陛下万歳三唱などの順序で行われた²⁷。その他に勤労報国の名目の下、集会時に2時間程度集団作業をする場合もあった。一心不乱の態勢を整えようという意図からであった²⁸。

愛国日行事の根本趣旨は、朝鮮人に日本の神道・天皇・国家に対する敬畏心と忠誠心、すなわち皇国臣民の道を体得させるところにあった。皇国臣民の誓詞(1937年10月に制定)斉誦は、元来から朝鮮人にだけ附課された²⁹。誓詞の内容は南総督の統治方針である国体明徴・内鮮一体・忍苦鍛錬が骨組みをなしていた。朝鮮総督府は愛国日行事だけでなく学校と団体の各種集会で誓詞を斉誦し、また出版物にもこれを掲載するように強要した。はなはだしくはこれを日本語で暗記できるか否かをみて配給品を支給したりもした³⁰。朝鮮教育会は京城の南山に南総督の親筆で彫った皇国臣民誓詞之柱と彫刻を建立して(1939.11.24)、これを宣伝・普及した³¹。

朝鮮総督府は皇国臣民の誓詞とともにこれを動的に実践できる皇国臣民体操を作り普及した。朝鮮総督府の皇国臣民体操趣意書(1937.10.8)によれば、日本武道の形式を手本として作ったこの体操は、身体の錬成と精神の統一を通し確固不拔の精神と忍苦持久の体力を養成して皇国臣民らしい気魄を涵養するのに役立つというのである³²。朝鮮総督府は1937年10月から全国の各学校と一般にこの体操を広く普及した³³。朝鮮人は愛国日行事、皇国臣民の誓詞提唱、皇国臣民体操の実施などを通じて、国家総力戦にふさわしい精神と身体をもった皇国臣民として生まれ変わり始めた。

朝鮮では中日戦争勃発1周年(1938.7.7)を迎え、日本と歩調を合わせて国民精神総動員運動を展開した。国民精神総動員朝鮮連盟の綱領(1938.9.22)は多岐に渡っていたが、その根本趣旨は朝鮮人を皇国臣民にして内鮮一体を実現し、生活革新と生産拡充を成し遂げて総動員に応じ、組織と訓練を通して戦時体制を確立するところにあった³⁴。朝鮮連盟は朝鮮総督府の行政組織と表裏一体になった実践組織だった。この地方組織である町洞里部落聯盟と各種団体連盟には、

²⁷ 同上、103頁。

²⁸ 朝鮮総督府時局対策調査会、1938『生活ノ刷新ニ関スル件』、32-35頁。勤労報国運動は①国家觀念の涵養、②内鮮一体の深化、③勤労愛好・忍苦鍛錬・犠牲奉公精神の涵養、④共同一致的行動の訓練、⑤体力の増進、⑥地方の開発、⑦非常時局認識の徹底などを目標とした。

²⁹ 皇国臣民の誓詞は児童用(初等学校と幼少年団体などで使用)と一般用(中等以上の学校と青年団体などで使用)がある。前者は①私共ハ大日本帝国ノ臣民デアリマス、②私共ハ互ニ心ヲ合セテ、天皇陛下ニ忠義ヲ尽シマス、③私共ハ忍苦鍛錬シテ、立派ナ強イ国民トナリマス、後者は①我等ハ皇国臣民ナリ、忠誠以テ君国ニ報ゼン、②我等皇国臣民ハ互ニ信愛協力シテ以テ団結ヲ固クセン、③我等皇国臣民ハ忍苦鍛錬力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン、という文句からなっていた(1938『生活ノ刷新ニ関スル件』、『朝鮮総督府時局対策調査会諮問案参考書』、19-20頁)。

³⁰ 鈴木栄太郎、1944『朝鮮農村社会踏査記』、122頁。

³¹ 京城日報、1939.11.24-25。

³² 朝鮮総督府、1940『施政年報三十年史』、793頁。この体操は木剣を持って行うのだが、14節の動作を3回連続するようになっていた。

³³ 京城日報、1937.10.13。

³⁴ 朝鮮総督府、1940.3『朝鮮に於ける国民精神総動員』、67-70頁。綱領の骨子は①皇国精神の顯揚、②内鮮一体の完成、③生活の革新、④戦時経済政策への協力、⑤勤労報国、⑥生業報国、⑦銃後の後援、⑧防共防諜、⑨実践網の組織及び指導徹底などだった。

最末端基底組織として愛国班があった。愛国班は10戸程度で構成され、戸代表が班員になった³⁵。朝鮮連盟は愛国班を通して従来の愛国日行事を実施する一方、綱領を具現する各種記念日と強調週間を設定して、生活革新と精神教化にのりだした。その中でも宮城遙拝と勤労貯蓄は国民精神総動員必行二則として重視した³⁶。

朝鮮総督府は名実共に内鮮一体を具現するという趣旨で1939年11月10日朝鮮民事令と朝鮮人の氏名に関する制令を發布して、1940年2月11日からいわゆる創氏改名を推進した。朝鮮総督府はこの措置を、「皇紀2600年紀元節に天皇陛下の暖かい配慮で朝鮮人も日本式の氏を持つようになった」と宣伝したが、その真意は朝鮮人を制度上・慣習上日本人と同じ皇国臣民にすることによって、容易に人的・物的資源を動員しようというところにあった³⁷。

国民精神総動員委員会は、公私の生活を刷新して戦時態勢を強化するという基本方針を設定した(1939.7.4)。そして毎月一定の日を国民生活日と定め、当日は全国民が戦場の労苦を賛えて、強力な日本を建設するために自粛自省することを要求した。この時作られた国民生活要綱には、早起励行、報恩感謝、大和協力、勤労奉仕、時間厳守、節約貯蓄、心身鍛練などの内容が入っていた³⁸。日本では1939年9月から毎月1日に興亜奉公日行事を挙行するようにしたが、実践事項は上の国民生活要綱とほとんど同じだった³⁹。

朝鮮総督府は日本の興亜奉公日制定に呼応して、2年余の間実施してきた愛国日を廃止して、1939年9月から毎月1日に興亜奉公日行事を挙行した。興亜奉公日行事の内容は、基本的に愛国日行事のそれとほとんど類似していた。まず、当日朝には職場と村で愛国班を中心に常会を開催した。全国各所で開かれる常会は、普通ラジオ放送の指示によって進められた。国民精神総動員京城聯盟が1940年7月に開催した興亜奉公日常会の順序は、①午前7時45分開会(国旗掲揚－国旗注目、国家合唱－伴奏放送)、②7時50分宮城遙拝(号令放送－1分間、黙祷－1分間)、③7時52分祈願(二千六百年紀元節に下賜された誓書奉読)、④7時57分議論事項(前月の活動報告、皇国臣民の誓詞斉誦、天皇陛下万歳奉唱、国旗降下、解散)などだった⁴⁰。京城連盟はこの日、住民に神宮神社参拝、禁酒、禁煙、一菜遵守、正午黙祷などを実践するように指示した。興亜奉公日の常会は国民精神総動員運動が国民総力運動に変わった(1940.10.16)後にも開催された。主要目的は皇国臣民としての誇りと銃後戦士としての自覚を高めて、臣道実践と職域奉公を生活

³⁵ 愛国班の数は、1941年に約42万個(戸代表数約460万)、1942年に約37万個(戸代表数約459万)で、朝鮮人世帯の大部分がここに加入した。(御手洗辰雄、1942『南総督の朝鮮統治』11-12頁)

³⁶ 朝鮮総督府、1940.3『朝鮮に於ける国民精神総動員』、141頁；愛国班実践事項は朝鮮総督府の方針によって月別に少しずつ変わった。例を挙げると、1941年11月は国民皆労運動、食糧国策順応、儀礼改善、国語使用、貯蓄励行に重点をおいた。(『愛国班実践事項』『朝光』第7巻11号、1941.11、72頁)

³⁷ 創氏改名に関しては宮田節子・金英達・梁泰昊、1996『創氏改名』明石書店を参照のこと。

³⁸ 朝鮮総督府、1940.3『朝鮮に於ける国民精神総動員』、165-157頁。

³⁹ 同上、147頁。

⁴⁰ 「愛国日はもつと自粛し積極的にやらう」『総動員』1940.9、35-36頁。京城府の愛国班活動については、이종민(李ジョンミン)、2004.5「도시의 일상을 통해 본 주민동원과 생활 통제－경성부의 애국만을 중심으로(都市の日常を通じて見た住民動員と生活統制－京城府の愛国班を中心に)」『日帝ファシズム支配政策と民衆生活』ヘアン、などの研究があるが、「日常生活の統制」という観点から接近した。

化することによって高度国防国家の建設に貢献するということだった⁴¹。

愛国日行事から分化・発展していった愛国班常会は、毎月7日夕方に開かれた。愛国班常会は一日の日課を終えた夕方7時30分あるいは8時から約2時間の間行われた。愛国班員である世帯主が必ず出席するのが原則だった。京城連盟の愛国班常会は、概略①開会、②宮城遙拝、③黙祷、④申し合わせ(周知事項含む)、⑤報告、⑥講話(国民総力運動・時局対策・防共・産業経済・衛生・生活刷新などに関する事)、⑦閉会、といった順序で進められた。時には興味をかきたてるために、和楽、映画、蓄音機、ラジオ、紙芝居、児童遊戯、児童唱歌、書画展、芸技披露などを添えたりもした⁴²。この他愛国班常会とは別途に婦人班常会を開催する場合もあった。毎月第3月曜に2時間程度開かれるこの集まりでは、主に集団で針仕事などの労働をした⁴³。愛国班常会は後にはラジオ放送の指導によって全国で一糸乱れず進められた。その順序は①開会あいさつ、②国旗敬礼、③宮城遙拝、④黙祷(出征将兵武運長久祈願及び戦歿将兵英霊に感謝)、⑤通達及び報告、⑥協議・懇談・議論、⑦講演(国民総力朝鮮連盟実践要項を中心に)、⑧皇国臣民の誓詞朗読、⑨閉会あいさつなどだった⁴⁴。大半の内容は京城連盟のそれと似ていたが、国旗敬礼、黙祷、皇国臣民の誓詞朗読などが追加され、皇国臣民錬成の色彩がより一層濃厚になった。

興亜奉公日の常会と愛国班常会の実施要領は、1942年1月から変更された。天皇が日米開戦を契機に決戦意志を固める詔書を頒布すると(1941.12.8)、国民総力朝鮮連盟は日本の例に従ってこれを記念して1942年1月から毎月8日を大詔奉戴日と定めた。そしてそれまで毎月1日朝に開催してきた興亜奉公日常会をこれに代え、毎月7日の夕方に開かれていた愛国班常会は毎月10日夕方に移して開催することとした⁴⁵。

朝鮮総督府は、大詔奉戴日の指導精神は大東亜戦争の完遂のために内鮮一体を成し遂げ、必勝信念・忍苦鍛練・明朗健実の姿勢で職域奉公に邁進するところにあると宣伝した。この日の常会は毎月8日の朝、必ず町洞里部落聯盟で放送時間に合わせて開催した。4月-10月は午前6時30分、11月-3月は午前7時30分に始めて、大概30分程度実施した。常会には必ず一家の主人が出席して、主人が事故の場合には主婦が代わりに参加した。各連盟も全く同じく常会を開催したが、当日が休日である場合には次の日に延期できた。常会に参加する各愛国班は必ず班旗を携帯した。常会は普通、ラジオ放送に従って①国民総力の歌または愛国班歌、②開会・国旗掲揚、③国家合唱、④宮城遙拝、⑤黙祷、⑥講話、⑦公知事項、⑧前月の報告、⑨皇国臣民の誓詞斉誦、

⁴¹ 「愛国日改善ニ関スル件」(1940.12.28、国民総力朝鮮聯盟事務局総長通牒)、『国民総力運動事務提要』70-71頁。南総督は国民総力朝鮮連盟総裁として国民総力京畿道連盟役員総会訓示で(1940.10)、高度国防国家の重要要素として国民の精神状態の統一、国民総訓練、自給自足のための最高度の生産力拡充を強調した。(朝鮮総督府、1941『半島ノ国民総力運動』82-83頁)

⁴² 国民総力京城聯盟、「常会の関き方」、『国民総力』1940.11、68-70頁。

⁴³ 三吉龍子、1940「多角的生産的婦人部常会の活動」、『総動員』、67頁。

⁴⁴ 肥塚正太述、1941.5「常会早わかり読本」、『国民総力』第3巻第5号、123-24頁。

⁴⁵ 南総督は大詔奉戴日の設定に際して次のような要旨の論告を発表した(1942.1.4)。「米国及英国に対し 畏くも宣戦の 大詔を渙発せられたる昭和16年12月8日は、我皇国一億国民が 皇謨を奉じて大東亜に断乎共栄圏建設の経綸を前め、世界人類の歴史に一新紀元を齎したるの日にして国民の永久に忘じ能はざる所なり是を以て本年1月以降毎月8日を以て大詔奉戴日と定め従来毎月1日の愛国日の趣旨及諸行事を之に発展帰一せしめ国民常時実践の源泉たらしむるに決す」(『集成』5、178頁)

⑩万歳奉唱、⑪国旗下降、⑫解散などの順序で進められた。

官公衙、学校、会社、銀行、工場及びこれに準ずる団体の各種連盟の大詔奉戴日常会では詔書奉読式を挙行了た。その標準方法(1942.1.20国民総力運動指導委員会決定)は①敬礼、②宮城遥拝、③国家合唱、④詔書奉読、⑤必勝祈念(大東亜戦争完遂のための必勝の祈念)、⑥訓話(官衙、学校、各種連盟、各団体の長、但し時宜によってこれを省略できる)、⑦皇国臣民の誓詞斉誦、⑧敬礼などの順序だった。参加者が多く屋外で式を挙げる場合には最後の敬礼の前に「天皇陛下万歳奉唱」をさらに加えた。官公衙、学校、会社、銀行、工場などに勤務する者も町洞里部落連盟の常会に出席しなければならなかった⁴⁶。

大詔奉戴日常会の進行順序と内容は、大体において興亜奉公日常会のそれと似ていた。参加者の団結と興味を養うために、国民総力の歌、愛国班歌、国歌などの合唱や万歳奉唱が追加された。注目に値するのは、詔書奉読が不敬にあたるようになされるのではないかと憂慮して現場で読まずにラジオ講話や講演に代えたという点だった⁴⁷。それほど天皇に対する敬畏とタブーが強かったためである。

小磯総督は前任南総督以上に皇国臣民の錬成を強調した。彼は朝鮮人に日本精神を注入して規律生活を体得させることを統治の最優先課題とした。彼は意欲的に推進した朝鮮人の徴兵さえも、朝鮮人が天皇に忠誠を尽くす本物の日本人にならなければ実行できないと見ていた。従って、彼は朝鮮人を皇国臣民に改造する特別錬成こそ最大最善の急先務だと考えた⁴⁸。朝鮮総督府は学務局に錬成課を設置して、体育などの業務を担当させた(1942.11.1)⁴⁹。そして小磯総督が総裁を兼任していた国民総力朝鮮連盟の組織を改編して、事務局総長の下に最大の部署として錬成部を設置した(1942.11.4)。錬成部には思想課(皇道精神の昂揚、国民思想の統一、防共防諜防犯、遵法精神の徹底及び保護施設への協力)、錬成課(国民の一般的錬成、国語普及、指導者婦人団体などの指導錬成、国民防共訓練)、青年課(青少年の指導錬成)、軍事普及課(軍事思想の普及)において、それぞれの任務を果たすこととした⁵⁰。文字通り官民一体で皇国臣民の錬成が全一的に推進されたのである。

朝鮮総督府と国民総力朝鮮連盟は、戦況が急迫するや従来の大詔奉戴日を1943年3月1日から錬成日に変え、毎週月曜ごとにその行事を挙げるように督励した。錬成日に、官公署・公共団体・会社・銀行・各種組合事務所は出勤定刻より30分から1時間半前に、工場・鉱山事業場などは

⁴⁶ 「大詔奉戴日運営에 대해」『朝鮮行政』232号、1942.2、94頁。その他に大詔奉戴日と関連し、平時に一般的に履行する事項には次のようなものがある。①必ず国旗を掲揚すること、②神社寺院・教会などでは必勝祈願の行事を行なうこと、③各自一層職域奉公に精励すること、④享樂方面の業者は一層自肅の徹底を期すること、⑤戦線将兵の労苦を賛えて一層皆勞・節約・貯蓄を期すること、⑥禁酒禁煙を励行すること、⑦映画館ではニュース映画・文化映画などに重点をおいて皇国精神の涵養、時局の認識、科学知識の啓発、日常生活の改善などを助けること、⑧映画館で興業時間のうち約5分間前後時局関係その他大詔奉戴日に関する場内放送または講話をすること、⑨軍事援護への協力、傷病兵及び出征軍人遺家族の慰問を強化すること、⑩愛国班の団結精神を強化すること、⑪一層廢品回収の実を上げること。

⁴⁷ 『国民総力』、1942.2、8頁。

⁴⁸ 朝鮮総督府情報課長堂本敏雄、「錬成と半島人」『国民総力』第9巻第4号、1943.4、56頁。

⁴⁹ 『朝鮮総督府官報』号外、1942.11.1

⁵⁰ 国民総力朝鮮同盟編、1944『朝鮮に於ける国民総力運動史』、160-161頁。

指導者が定めた適当な時間に平日より早く出勤し、厳格な規律の下、①国民儀礼、②体操・教練を行い、これが不可能な場合には訓話・勤労作業などの行事に代えた。女子は教練の代りに儀礼などを習得した。錬成日行事の大半の内容は大詔奉戴日のそれとほぼ類似していた。しかしながら行事の頻度を月1回から週1回、すなわち4倍に増やして、錬成の範囲を各界各層に拡大することによって、皇国臣民化と国家総動員の強度を極端に高めたという点は注目に値するものだった⁵¹。

朝鮮総督府は戦争が最終段階に至るや、生産・配給・消費のあらゆる分野を急速に軍需体制に再編していった。そして皇国臣民の錬成も総動員を重視する方向に旋回した⁵²。国民総力朝鮮連盟は錬成部を縮小して実践部を新しく設置した。1943年11月15日の組織改編で、錬成部は国民信仰課(国体の本義徹底、国民信仰の指導、国民思想の統一)と錬成課(指導者錬成、その他の一般錬成)に減った反面、実践部は仕奉課(仕奉隊、愛国班の指導、その他勤労報国運動)と戦時生活課(戦時生活の確立、貯蓄奨励、厚生、軍人援護)を従えた。小磯総督に続いて阿部信行が総督に就任(1944.7.24)して以後の1944年12月1日の組織改編では、最初から錬成部が廃止され、実践部の下に錬成課(国民信仰、錬成)として編入された。反面仕奉課は新設された勤労部に移管され、仕奉隊の指導、労務管理改善の促進、増産運動などを担当した⁵³。

日本が徐々に敗戦の窮地に追い詰められていくと、朝鮮総督府は1945年初めに国民総力朝鮮連盟を国民義勇隊中央本部に改編した。この名称に見られるように、新しい組織の目的は朝鮮人すべてを戦争に直接加担させようとするところにあった⁵⁴。これに伴い皇国臣民の錬成は朝鮮人の生活の隅々まで深く入り込み、一挙手一投足を規制するようになった。しかしながら無限大に拡大された錬成は、既に錬成としての価値を喪失した。そして皇国臣民化を通じた内鮮一体の実現も、未完成のまま幕を下ろすことになった。

2) 「錬成」運動の部門別深化

(1) 学生

学生は体系的な教育組織の中に編成されていたうえ、第2の国民として期待されたために皇国臣民錬成の第1次対象だった。朝鮮総督府は朝鮮と日本の学制を同一法規の下で均等にする

⁵¹ 朝鮮総督府、1943『朝鮮統理と皇民化の進展』。国民総力朝鮮連盟は皇国臣民錬成を通じた内鮮一体化の実現と戦時協力を通じた国家総動員の実践を運動の二本の軸と定めていた。その中で皇国臣民錬成の部門別目標と内容を摘示すれば以下の通りである。①指導民族としての錬成—皇国の世界的使命自覚の徹底、指導民族の資質と品格の涵養、世界新秩序建設段階に関する知識の普及、②指導者の錬成—地域連盟指導者の錬成、推進隊員の錬成、③青少年の錬成—青少年学徒に下された勅語聖旨徹底、武道・角力・水泳・登山・馬術・国防競技などの奨励、軍事基本技術の訓練、海洋国防の訓練、耐寒耐暑鍛錬、吟詠の指導、④婦人の錬成—婦人の躰の基本要綱作成、婦人指導員の錬成、婦人指導員の内地派遣、婦人指導員の地方巡回講演、婦人錬成に関する集会及び印刷物刊行、⑤職域の錬成—各職域での錬成要綱の作成、職域での錬成組織結成の促進、職域指導者の錬成、職員及び労務者の錬成、職域奉公精神徹底のための啓発宣伝、⑥宣伝文化の錬成—宣伝文化の錬成講習、宣伝文化人の聖地参拝、勤労奉仕、農村その他生産地派遣。(国民総力朝鮮連盟、1943『国民総力運動要覧』、33-75頁；『集成』6、218頁)

⁵² 「座談会 錬成を語る」『朝鮮行政』234号、1943.1、32-34頁。

⁵³ 国民総力朝鮮同盟編、1944『朝鮮に於ける国民総力運動史』、163-166頁。

⁵⁴ 大蔵省管理局、1946『日本人の海外活動に関する歴史的調査』通巻3朝鮮2、76頁。

いう方針の下、第3次朝鮮教育令を發布した(1938.3.4)。しかし実際目的は南総督が標榜した3大教育方針(国体明徴・内鮮一体・忍苦鍛錬)に徹底的に従い、朝鮮人を真の皇国臣民に育成するところにあった⁵⁵。まもなく公布した(1938.3.15)小学校規定は、「小学校は児童身体の健全な発達に留意して国民道徳を涵養して国民生活に必須な普通の知識を得るようにすることによって忠良なる皇国臣民を育成するのに努めなければ」と規定した。「忠良なる皇国臣民を育成」という一節は日本の小学校令にはない内容だった⁵⁶。従って朝鮮人にも日本人と同じ教育を実施するという名目で發布した第3次朝鮮教育令は、異民族である朝鮮人を真の日本人、すなわち皇国臣民に育成するという政策意志を反映したものであった⁵⁷。朝鮮総督府は京城に教学研修所を設置して(1939.4)、教員をこの道場に受け入れて国体の本義に基づいた皇国臣民教育の真髓を徹底して錬成することとした⁵⁸。

朝鮮総督府は皇国臣民の錬成が朝鮮統治の最優先課題として浮上するのに伴い、学校教育もこれに相応する方向に変えた。国民学校制度を導入しながら發布した(1941.3.31)国民学校令は、「国民学校は皇国の道に従い初等普通教育を実施して国民の基礎的錬成を成し遂げることを目的とする」⁵⁹と規定した。小学校の目的が「忠良なる皇国臣民を育成」することであったのに比べて、国民学校の目的は「皇国の道に従い」「国民の基礎的錬成」を成し遂げるものへと強化されたのである。ここで言う「皇国の道」は「3千年にわたって輝かんばかりに、生成発展してきた日本民族の歴史それ自体」で、「国民の基礎的錬成」は学生の精神と行動を「皇国の道」に統合・帰一させるものだった⁶⁰。南総督は国民学校制度を実施する理由が皇国臣民の資質錬成にあるという点を次の通り明確に示した。

我が国教学が目的するところは私たちの尊厳な国体の本義に基づいた教育勅語の趣旨を奉体して皇運扶翼の大道に邁進できる忠良有為な皇国臣民の資質を錬成するところにある。……大東亜共栄圏の確立と世界新秩序の建設はより一層有為な人材を求めているこの時、臣道実践の根基を育てなければならない教育でも国家新

⁵⁵ 同上、780頁；高尾甚造、1938「改正教育令の実施まで」『文教の朝鮮』152、140頁；南総督は朝鮮教育令の改正を陸軍特別志願兵令と合せて内鮮一体化の重要施策として評価した。「統治の目標は半島の日本化すなわち内鮮一体の具現にある。……上のおよな理想と目的を達成するために二つの重要施設をしようと考える。そのひとつは朝鮮人志願兵制度の実施、その二つは教学刷新及び拡充です。」(朝鮮総督府、1940『施政三十年史』803頁)

⁵⁶ 近代日本教育制度史料編纂会、1956『近代日本教育制度史料』8、大日本雄弁会講談社、176頁。

⁵⁷ 宮田節子、1991「皇民化政策の構造」『朝鮮史研究会論文集』緑蔭書房、46頁。

⁵⁸ 全朝鮮から選抜された第1回研修員(1939.4.25-5.24)の日課は次の通りだった。①5:30-6:00起床、作務-洗面、冷水摩擦、清掃作業など、②6:00-6:30朝拝、静座-神拝祝詞奏上、宮城遥拝、誓詞、静座正念、朗誦など、③6:30-6:50修練-建国体操、皇国臣民体操、ラジオ体操、国民体操など、④7:00-8:00朝食-静座朗誦、⑤8:00-12:00講義、⑥1:00-3:00講義、⑦3:00-4:00修練-作業、武道、体操、登山など、⑧4:00-6:00自己研究-自己研究、合同視察など、⑨6:00-7:00夕食-正座、朗唱、⑩7:00-8:30黙修または研修会-研修会(水、土)、体操、唱歌、律動、遊戯、⑪8:30-9:00夜拝、正座-朝拝に準ずる、⑫9:00-9:30作務、就床-清掃、就寝(「教学研修所参観記」『朝鮮の教育研究』130、1939、68頁)。

⁵⁹ 『朝鮮総督府官報』1941.3.31。

⁶⁰ 小林節蔵、1942.5『国民学校学級錬成の新形態』啓文社出版、東京、1頁、28頁。錬成の教育的性格を強調する者たちは、西洋の教育は主に自己保存性を基調とした知的・合理的教育を強調し、日本の教育は種族保存性を重視してきた祖孫一体の本能的・直観的・感情的純化を指向すると考えた(同上、5-7頁)。

体制に即応して、誠に八紘一宇の肇国精神を顕示しなければならない皇国臣民の資質を錬成する必要が一層より緊急に必要な。これが半島で小学校制度を実施しようという理由だ⁶¹〔韓国語訳から再日本語訳を行った一訳者〕。

朝鮮総督府は国民学校教育の方法として、知識と実行、精神と身体の一體的鍛練を重視し、共学共錬、師弟同行、教児一体の態勢確立を強調した。朝鮮総督府はこの実践のために、学校を全一的な人格陶冶と国民錬成の道場として再編した⁶²。国民学校の教科は国民科(修身、国語、国史、地理)、理数科(算数及び理科)、体錬科(体操、武道)、芸能科(音楽、習字、図画及び工作、女子については家事及び裁縫)、職業科(農業、工業、商業または水産)の5科に統合された⁶³。授業時間は45分から40分に短縮され、代りに学校行事、共同作業、団体訓練、体育、運動、衛生訓練、国語練習、音楽練習などの時間が増えた。四大節(四方拝、紀元節、天長節、明治節)、祝祭日、靖国神社大祭、愛国日、朝礼、運動会、遠足、修学旅行、始業式、入学式、卒業式、集団勤労、展覧会、学芸会などの行事は教科と一体化された。教師は学級錬成に心魂を傾け、学生に尊皇敬神・祖孫一体・身土不二の精神を注入して、皇国の道に従う礼法と行動の修練を通じ、日本民族としての魂を覚醒させた。特に国家総力戦に応じて体錬的・尚武的集団訓練を重視して、理工的科学的振興を図り、聴覚及び色覚訓練を徹底的にすることによって兵力としての資質を錬磨した⁶⁴。各学校の校友会は国民総力学校連盟に改造されることによって(1941)、学生は挙校一体・師弟同行の新体制の下、国民総力連盟員の資格で高度国防国家体制の一翼を担当するようになった⁶⁵。そして学校教育では錬成、修練、訓練、鍛錬、錬磨などのように、「精錬する一鉄などに火気を入れて硬度を高める」という意味をもった単語が教育方法の性格を表現する用語として流行した⁶⁶。

小磯総督は教育審議委員会(1942.12.5)で朝鮮でも義務教育制度を実施するという意向を明らかにした⁶⁷。朝鮮人を徴兵に導くためには皇国臣民としての錬成が絶対に必要だが、それは国民学校教育を通じてなされなければならないと見ていたためである。第4次朝鮮教育令の実行は(1943.4.1)、「大東亜戦争完遂」と「大東亜建設完成」のため、皇国臣民の錬成体制を完全に整え、教育内容の刷新と授業年限の短縮を通じて国防教育体制を完備しようという目的を持っていた。こ

⁶¹ 『集成』5、225-226頁；伊倉健治、1942『改訂国民学校教育精説』春川師範学校、1-4頁。

⁶² 同上。

⁶³ 松月秀雄、1942「国民学校令と体育」『文教の朝鮮』200、2頁。

⁶⁴ 小林節藏、1942.5『国民学校学級錬成の新形態』啓文社出版、東京、1-3頁。

⁶⁵ 『集成』5、139-140頁。

⁶⁶ 同上、3-4頁。当時学生の錬成は次のように日本刀の鍛練に好んで比喩された。「所謂鉄のよな意思、百錬の鉄の如き性格を築き上げて行く。さういふ意味を日本にあてはめて参りますと所謂「日本刀が教育する」といふことが言へるのではないかと思ひます。日本刀の鋼鉄の鉄兜を断ち割つても刃こぼれもしない強力さ、積極的な強力性、それと錬鉄の折れざる強靱さ、ねばり強さ、これが一体になつたのが日本刀であります。鋼鉄は強いが併し折れ易いやうな性質を持つてゐる、それを補つて、何処迄も強靱にねばり強く、長期戦的な、頑張つて事業を完遂するという性格、それと鋼鉄の切れ味、切れる力、この二者を兼備した人間、日本刀の如き人間を鍛へ上げて行くといふことが今日の教育者に要請される点ではないかと思ひます。」(「座談会 錬成を語る」『朝鮮行政』234号、1943.1、26-28頁)

⁶⁷ 『集成』6、99頁。

れに伴い、朝鮮の学校制度は日本のいろいろな学校令に合わせることによって、日本と朝鮮は同一の体制の下で皇国臣民の錬成に邁進できるようになった⁶⁸。

戦局が悪化すると朝鮮総督府は「学徒戦時動員体制確立要綱」を發布した(1943.7)。主要内容は有事即応体制確立、学校教練の徹底強化、勤労働員の強化、食糧増産、国防施設、緊急物資生産、輸送力増強などだった。これに伴い学校附属農園と実習地などが開墾され、学生も国防要員ないし生産要員として動員された⁶⁹。小磯総督は中等学校長会議(1943.7.12)で、学徒の決戦即応体制は大東亜戦争必勝の決戦段階に即応し、軍教一体の精神を強化し、学徒に戦技を教え、国土防衛、産業部門及び交通部門など戦時に必要な諸般の業務に積極的に参加するようにさせるところに目的があるので、学生はひたすら戦技訓練の徹底を図って心身を鍛えよと促した。朝鮮総督府はこのために科学技術教育を振興して、滑空、機甲、海洋、馬事、通信などの訓練を奨励した⁷⁰。

学校教育で錬成の無制限的拡大はすなわち軍事訓練だった。そしてその帰着点は学生の軍事動員でしかなかった。朝鮮総督府は「半島学徒臨時特別志願兵」として軍門に入っていく生徒に予備訓練をさせるために特別志願学徒錬成所を作った(1943.12.22)。小磯総督はその訓示で、

皇国は現在大和魂という精神力と用兵の妙と独特なる実力と飛躍する生産増強の物力とも敵に優つてゐる。…
…皇軍の強い所以はそれが形而下の問題でなく精神であり、真心である。一つの誠こそすべてを支配する。誠といふことを忘れずこの1週間の錬成に軍門への構へ固めて欲しい⁷¹。

と述べた。錬成は今や形而上を極端に強調する精神主義に走った。朝鮮総督府はまもなく「決戦非常措置要綱」を發布し(1944.2)、中学生以上に対し1年常時動員体制を整えた⁷²。そして「決戦非常措置要綱に基づいた学徒動員実施要綱」(1944.3.7)を実施し、日曜日にも授業という名目で労務に動員した⁷³。戦時教育令の実施(1945.7.1)は錬成が破綻に直面したことを示す最後の証拠であった。

(2) 青年

青年は精神と身体の両面で労務と兵事に適合した階層であったため、朝鮮総督府は平時にも彼らの訓練に力を注いだ。日本の例にならって青年訓練所規定を公布し(1929.10.1)、16才の男

⁶⁸ 大野健一、1943「朝鮮教育令の改正とその実施について」『文教の朝鮮』210、4頁。

⁶⁹ 近藤英男、1944「朝鮮における学園非常態勢について」(下)『朝鮮』347、40頁。当時雑誌などでは第2の国民である学生が勤労作業に参加することの教育的効果をこのように評価した。「総力戦下挙国の決戦体制に参加して其の心魂を錬り、身体を鍛へ、現実の体験を通じて志を不拔に培ふの方途に就かしむることを以て、教育精神の強化達成を期する様に努力せねばなりませぬ。

……朝鮮の国家的大使命たる食糧増産の運動に従つて、額に汗する感激に至つては、教壇上よりする千言の修身訓話に勝ること萬萬であり、……」(「皇国農道の昂揚と食糧増産」『朝鮮行政』246号、1943.4、230-238頁)

⁷⁰ 『集成』6、298-299頁。

⁷¹ 『集成』6、440頁。

⁷² 近藤英男、1944「朝鮮に於ける学園非常態勢について」(下)『朝鮮』347号、43-44頁。

⁷³ 同上、44頁。

子を入所させて4年間訓練させたのが良い例だった。その目的は青年の心身を鍛えて国民の資質を向上させるというものだった。青年訓練所は後に実業補習学校を合わせた学校制度に発展し、上の目的以外にも男女青年に職業及び實際生活に必須の知識と機能を普及する役割を果たした。国家総動員体制の確立とともに青年訓練所の規模は拡張され、1941年10月現在公立訓練所1743ヶ所、私立訓練所87ヶ所、職員数1173人、生徒数7万4207人を数えた。そしてその役割と性格も朝鮮青年を皇国臣民に錬成する方向に変わった⁷⁴。

朝鮮総督府は国民精神総動員運動を促進することのできる施設として、中堅青年修練所を設置した(1939.4)。設立の趣旨は社会の指導者になる青年男女に堅実な国家観念と堅固な国民信念を植え付け、皇国臣民としての誇りと中堅人物としての資質を錬成させるところにあった。中堅青年修練所は「内鮮一体の霊地」と呼ばれた忠南扶余に設置された⁷⁵。青年訓練所が拡大され、中堅青年修練所が設置されたのは、陸軍特別志願兵令(1938.2.26)と朝鮮総督府陸軍兵指導者訓練所規定(1938.4.2)の公布と軌を一にする措置であった。

朝鮮青年の錬成が国家総力戦に沿う方向へと画期的に転換したのは、朝鮮青年特別錬成所の設置と運営だった。その目的は朝鮮青年の中で国民学校教育を受けていない者に軍務に必要な資質を錬成して、合わせて勤労に適応する素質を育成するところにあった⁷⁶。小磯総督は朝鮮青年特別錬成令の施行(1942.11.3)を控えて開かれた臨時道知事会議(1942.10.27)でこの法令の趣旨について、以下のように述べた。

皇国軍人たるには一死殉忠の日本精神と強健なる身体を具備するを要し、此の資質は入営後軍の厳格なる訓練により更に鍛練されるのでありますが、朝鮮の現状を概観するに国民としての基本的教養が十分ならざるもの多く特に精神的方面に於て其の然るを痛感致すのでありまして、之が欠陥を補ふ根本対策として国民教育の義務制を可及的速に実施するの要を認め目下鋭意準備中ではありますが、応急の措置として朝鮮青年中の国民教育未就学分野に対し一定の錬成を施して之等青年をして将来健民たり健兵たり得るの資質を啓培せしめんが為に本錬成制度を定めた次第であります。

尚他面総力戦体制に即する労務動員の要請に応じ半島青年が勤労に依り国家に奉仕し聖業を翼賛し奉るは兵役に垂いで重要なる責務たる徴し、之が錬成によつて勤労者としての資質を体得せしめんと趣旨も併せ兼ねしめたる所以であります。

之を要するに本制度は徴兵制と形影相伴ふ重要施策なると共に国力増強に最も重要な勤労思想を啓培せんとするものにして本施設により半島青年の一般的資質は画期的に向上し、産業及文化の伸張に寄与する所尠か

⁷⁴ 西尾達雄、2003.2『日本植民地下朝鮮における学校体育政策』明石書店、531-534頁。1938年1月当時、朝鮮の青年団数は約4千余、団員数は約15万人、朝鮮総督府の中堅青年養成講習会(1931年以来)を修了したのは450余人だった(『集成』5、135頁)。朝鮮の青年団と青年訓練所などについては、崔원영、1997「日帝末期(1937-45)의 青年動員政策—青年団과 青年訓練所를 中心으로(日帝末期(1937-45)の青年動員政策—青年団と青年訓練所を中心に)」西江大学校大学院史学科碩士學位論文; 허수、2000「戦時体制期 青年団의 組織과 活動(戦時体制期青年団の組織と活動)」『国史館論叢』第88輯などの研究がある。前者は錬成についても言及しており参考になる。

⁷⁵ 近藤英男、前掲書、44-45頁。

⁷⁶ 『朝鮮総督府官報』号外、1942.10.1。

らざるを信ずるのであります⁷⁷。

これでわかるように、朝鮮総督府は朝鮮青年を動員して軍事力と労働力に充当しようとしたのだが、そのためにはまず朝鮮青年を忠良なる皇国臣民に錬成しなければならないのであった⁷⁸。錬成所の入所対象者は国民学校を修了していない朝鮮人男子(1942年4月1日に17才以上、1943年3月31日に21才に達しない者)の中から道知事が選定した。錬成期間は総じて1年だが、朝鮮総督が必要に応じて6ヶ月まで短縮できた。入所は毎年4月だった。錬成時間は訓育及び学科400時間、教練及び勤労作業200時間だった。錬成の内容は国語習得、体位向上、日本式生活修練などだった⁷⁹。その中でも日本語の習得を最も重視し、600時間のうち400時間を割り当てる場合もあった⁸⁰。兵事と労務では日本語の習得が先決条件だったためである。

朝鮮青年特別錬成所は1942年12月1日の時点で、公立715ヶ所、私立26ヶ所であった。1943年には1922ヶ所の公立錬成所が増設された⁸¹。錬成所は大部分既存の国民学校施設を利用して、教員と現役軍人が教育を担当した⁸²。入所対象者は1944年度の徴兵適齢者のうち、未就学者11万名であり、1942年12月から1943年初めまで3万名、1943年4月から1944年3月末までで8万名を教育し、1944年以後から毎年約11万名を受け入れられる施設を確保する計画だった⁸³。

朝鮮総督府は、青年特別錬成所の錬成を終えた者のうち、徴兵予備検査で現役徴集が予想されたり、徴兵検査で現役徴集される者については、1944年5月から順番に軍務予備訓練所で約2ヶ月間の訓練を再び受けさせるようにした⁸⁴。軍務予備訓練所は陸軍兵志願者訓練所を徴兵制実施に合わせて改造したもので、京城・平壤・始興の3ヶ所設置された。この訓練所は徴兵制実施をひかえて、義務教育制がない朝鮮で朝鮮青年に日本語と教練を教え、忠孝一本の精神と皇国軍人の死生観を体得させようという目的を持っていた。訓練日課は05:30起床から21:30消灯まで続いたが、その内容は次の通りだった。①訓育－勅語勅諭の意味にしたがい国体の尊厳と皇軍の本質を教える。②学科－日本語に重点をおいて常識を増やす。③術科－教練・体操・武道による至誠尽忠の軍人精神涵養と身心一体の実践鍛練を図る。④内務－規律・節制・服従・体験・協同の習慣と徳性を涵養する。訓練期間は40日だった。朝礼では次のような行事が挙行された。①敬礼、②宮城遥拝、③伊勢皇大宮拝礼、④勅諭・吾等の訓練・所訓斉誦、⑤「海ゆかば」斉誦、⑥訓示及注意、

⁷⁷ 『集成』5、264-265頁。小磯総督は各道内務部長会議(1942.11.14)で朝鮮青年特別錬成令の施行方向について、「皇国日本の訓育は、国体観念に透徹せしむることである。特別錬成令とは徴兵の予備訓練と同時に勤労精神の訓練だ。現在日本をすべて労務者に最も必要なことは労務者に精神的感激を与えるものだ。戦争に勝利するには武力と物資が必要だ。すなわち生産拡充だ。生産拡充には労務者ひとりひとりが真にその立場を自覚することだ。余は労務精神の訓練がなによりも必要だと考える。」と述べた(『集成』6、82頁)。

⁷⁸ 政務総監田中武雄の朝鮮青年特別錬成令制定に対する談話(1942.10.1)にはこのよう一節がある。「本令の目的とする所は朝鮮人たる男子青年に対し心身の鍛練其の他必要なる訓練を施し以て之等青年が将来軍務に服すべき場合に必要なる資質を錬成し兼て勤労に適応する素質をも備へしめんとする」(『集成』5、472頁)。

⁷⁹ 『朝鮮総督府官報』4724号、1942.10.28；朝鮮総督府、1943「朝鮮統理と皇民化の進展」。

⁸⁰ 崔由利、前掲書、166頁。

⁸¹ 朝鮮総督府、1943「朝鮮統理と皇民化の進展」。

⁸² 大蔵省管理局、1946、前掲書、60頁。

⁸³ 朝鮮総督府、1943「朝鮮統理と皇民化の進展」。

⁸⁴ 同上。1944年度の子想人員は25,000人だった。

⑦体操⁸⁵。

兵力動員への圧力が大きくなると、朝鮮総督府は国民学校程度の教育を受けた青年に対しても訓練を実施した。初等教育を受けた後5、6年間放置されていると軍務に適応するのは難しいと考え、入営前に短期間でも錬成して皇軍としての資質を整えさせようとするものである。このため朝鮮総督府は青年訓練所2207ヶ所を設置した。そしてここに入所しない者については、1944年から徴兵予備検査を実施して、現役徴集が予想される約22000人を青年訓練所別科で1年300時間を標準に徴兵予備訓練を実施した⁸⁶。

これまで見てきたように、各種訓練所を利用した朝鮮青年の錬成は、徴兵・徴用制度の実施を展望しながら実施された。錬成の核心は天皇のために身体と心を全て捧げることのできる死生観を植え付けて、よろこんで徴兵・徴用に応召できる態勢を整えるところにあったのである⁸⁷。

(3) 労働者

朝鮮総督府は国家総力戦の物的資源を直接生産・運搬・操縦する朝鮮人労働者を皇国精神に透徹した勤労者に錬成するのに心血を傾けた⁸⁸。朝鮮総督府は国民精神総動員朝鮮連盟とともに、1939年9月から興亜奉公日行事の一環として勤労報国運動を展開した。この運動の目的は朝鮮人に国家観念、内鮮一体、勤労愛好、忍苦鍛練、犠牲奉公、団体行動、非常時局などの認識を植えつけるところにあった⁸⁹。これに伴い、満14才以上40才未満の男子と、満14才以上25才未満の女子は、自分が属する愛国班・学校・職場・部落などの勤労報国隊に編入され、一定時間労働に従事しなければならなかった。

勤労報国運動は1941年9月から国民皆労運動に拡大された。国民皆労運動は兵役義務を負っていない朝鮮人が国家に報いるという意味から自発的に労力動員に参加することによって労働賤視傾向と半労半閑現状を打破し、勤労報国精神と皇国臣民資質を錬成して高度国防国家体制の

⁸⁵ 本誌記者、1944.8「意気衝天한 第三軍務予備訓練所見学記(意気衝天たる第三軍務予備訓練所見学記)」『朝光』第10巻8号、52-55頁。

⁸⁶ 崔由利、前掲書、205頁。

⁸⁷ 「座談会 錬成を語る」『朝鮮行政』234、1943.1、29-30頁。この座談会で朝鮮総督府官吏は、「徴兵制度に備へるために錬成の準備は必要ではありますがそれよりも大きな期待が痛感せられるのは徴兵制度実施後の貴重なる体験が、朝鮮青年の魂を錬成して行くと思ひます。兎に角朝鮮青年が生死の問題について、今のやうに現実的に考へねばならぬ境遇に立つたことはないと思ひます。

天皇陛下の為に戦争に行つて、倒れて死ぬといふ心境は少数志願兵の場合以外の青年が曾て考へて見たことのないと思ひます。その機会に今度ぶつかつた訳でありますから、愈々何年か経てば自分自身戦争に出て行くことが出来る、随つて心の中に死生観を築上げておかなければ安心して御召に応じられないといふやうな心境にある様です。何等かの心構へを有つてゐなければ不安で仕様がなないといふやうな立場に在る訳であります。そこではじめて松月先生の仰つしやつたやうな皇国の原理を死生観の基礎として本当に考へざるを得ない立場になるのではないかと思ひます」と語つた。

⁸⁸ 郭健弘、前掲書；이상익(李サンイ)、2003.12「일제시대 말기의 ‘노무관리’ 와 노동통제(日帝支配末期の『労務管理』と労働統制)」『역사와 현실(歴史と現実)』、韓国歴史研究会；선재원(孫・ジェウオン)、2004.5「전시노동력동원과 노동자생활(戦時労働力動員と労働者生活)」『日帝ファシズム支配政策と民衆生活』へアン、などは戦時体制期の労働者錬成について部分的に言及した。郭は「労働現場の軍事化」、李は「労務管理の戦時化」、孫は「労使関係の多元的接近」という観点から接近した。

⁸⁹ 朝鮮総督府時局対策調査会、1938『生活ノ刷新ニ関スル件』33頁。

確立を強化するという趣旨を掲げた⁹⁰。当時労働界は、錬成は精神を通し身体を支配し、身体を通して精神を確立し、さらに進んで一億一心を具現して戦力を増強させる訓練、すなわち精神と身体との融合過程であると認識していたために、朝鮮人労働者の機能を向上させることより、皇国臣民としての資質を体得させることに力点を置いた⁹¹。

戦争の拡大で朝鮮人労働者の動員が幾何級数的に増え、その方法が募集(1939.9)、斡旋(1942.2)、徴用(1944.8)などのように朝鮮総督府が直接介入する方向に移ると、朝鮮人労働者に対する錬成ははるかにより組織的で厳格になった。政務総監は各道知事に「勤労管理の刷新強化に関する件」を下達し(1943.8.1)、労働者錬成を強化するために単位産業の労資を軍隊のように隊組織に編成せよと指示した。これによれば、各産業の職場は天皇を中心に奉じる国民の一大家族的構成であり、皇道国家観念を実現する産業軍団であるために、労資の対立的忖意は許されず、重役・職員・技能者・一般労務者はあたかも皇軍における将軍・佐尉官・下士官・兵士の関係にある。皇軍が軍団組織により最高指揮官のもと、上下渾然一体となって軍隊精神の発揚に邁進するのと同様、重役は軍団長、工場・事業場・事務所の長は部隊長、課長または係長は中隊長、課または係職員は小隊長、職長級は分隊長、一般労務者は兵士のような関係で、一致団結して上下間の人格的結合を基調とする産業軍団精神の昂揚を図り、指揮者は率先して陣頭に立ち、部下は指揮者の指揮の下、秩序に従って服従を重んじ、各自の職分でその能率を最高度に発揮するように努力しなければならない。このような目的を達成するために、工場・事業場は隊組織を作って徹底的に勤労者を錬成しなければならないということなのである⁹²。

上のような指針とあわせて、政務総監が示達した工場・事業場勤労者錬成の趣旨と方法は、次の通りだった⁹³。まず、勤労者錬成の趣旨は、勤労者を国体の本義に基づく皇国勤労観に徹させ、これを業務及び日常生活に実現することによって勤労能率の増進と生産力の増強を図るところにある。錬成の方法には一般錬成と特別錬成がある。

一般錬成の場合、行事を通じた錬成として、始礼(作業開始ごとに全員が一緒に、または各部署別に行う)には、①宮城遥拝、②黙祷、③皇国臣民の誓詞斉唱、④工場・事業場訓朗読などがある。終礼(作業終了後全員または各部署別に行う)には、①宮城遥拝、②帰りのあいさつを行う。四大節及び大詔奉戴日行事では①国旗掲揚、②宮城遥拝、③国家奉唱、④勅語・詔書奉読、⑤黙祷(必勝祈願)、⑥訓話、⑦天皇陛下万歳奉唱、⑧国旗降納を行う。また各種施設による錬成として、毎月1回名士を招請して講演を聴講すること、事業場内図書室の図書・新聞・雑誌閲覧、掲示場の時局関連資料閲覧、ラジオ・レコード聴取、毎月1回映画観覧、武道を通じた精神訓練などを行う。日常生活を通じた錬成として、①神棚礼拝、②早寝・早起、③無欠勤・無遅刻、④通勤班の結成による訓練、⑤消費生活の規制、⑥貯蓄の奨励、⑦敬礼の確守、⑧整理整頓、⑨健全娯楽などを行う。職場を通じた錬成としては、①毎月1回職場別懇談会で反省と協議、②規律確立、③整理整頓

⁹⁰ 「国民皆労運動実施要綱」『朝光』第7巻11号、1941. 11；『朝鮮』1941年9月号、61頁；宮孝一、「朝鮮皆労運動」『朝鮮』1941年11月号、16頁。

⁹¹ 宮孝一、「朝鮮の錬成」『朝鮮』1942年12月号、19-26頁。

⁹² 「工場事業場ニ於ケル勤労管理要綱」『朝鮮労務』第3巻第4号、朝鮮労務協会、1943.9、66頁。

⁹³ 「工場事業場勤労者錬成要綱準則」1943.9、『朝鮮労務』第3巻第4号、朝鮮労務協会、67-68頁。

美化、④工程の工夫改善、⑤機械工具・電力・熱・資材の愛護節約、⑥技術の向上、⑦安全の徹底などを履行する。

特別錬成の場合、新規就労者は必ず合同宿舎に受け入れて就労予備錬成をしなければならないのだが、主要内容は①講習会(10日間)―勤労報国精神、事業の使命、作業基本操作及び作業上必要用語、職場衛生、災害防止、職場の儀礼、関係法令などの教授、②実習講習会終了後1ヶ月間標準作業方法実習、③合同宿舎での生活訓練―団体、規律、衛生、経済、一般生活の向上などだった。中堅労務者指導訓練所は前途有望な青年勤労者を一定期間入所させて訓練した。特に私立錬成所は軍事教練を通じ規律・責任観念を錬成した。

国民総力朝鮮連盟は決戦勤労体制を徹底的に確立するために、1943年秋、各種規約準則を一部改正して鉱山・工場の愛国班を仕奉隊に改編した。仕奉隊の趣旨は、国体の本義に基づいた皇国勤労観を堅持して、職域をすべて大君に奉仕する一体の境地で心身を鍛えて能率を増強するという事だった。仕奉隊組織の中で、男子隊員は25才以下を青年隊、26才以上を壮年隊と称し、各隊は人員の多少と作業機構によって大隊・中隊・小隊・分隊に分けて、1分隊は10人、小隊は2～3分隊、中隊は2～3小隊、大隊は2～3中隊で編成した。各隊に隊長1人、部隊長2人、大・中・小・分隊長若干をおいた⁹⁴。

政務総監は、工場・事業場勤労者錬成とともに、鉱山・工場仕奉隊錬成の実施要領についても指針を下した。そのうち、行事を通じた錬成、各種施設による錬成などは、上で検討した工事場・事業場錬成とはほぼ同一だった。その他に体育及び国防に関する錬成として、①軍隊的規律訓練と武道及び体育随時実施(工場体操等)、②国防防諜、③合同宿舎の生活訓練などを実施した。中堅労務者には随時講習会を開催した⁹⁵。

ところで、朝鮮総督府が上のように徹底して朝鮮人労働者を錬成した理由は何であろうか？ 朝鮮人労働者を動員して管理するのに率先して取り組んだ朝鮮労務協会の囑託上田龍男によれば、朝鮮の野原から米を取り、山から重要鉱物を掘り出し、青壮年からは最高度の労働力を得ることがこの戦争に勝つ為に絶対的に必要な国策だが、いまだ朝鮮人労働者の質の問題は未解決のまま残っているということである。量には限りがあり、終わりがあるが、質には限りがなく、不可能を可能にする多くの神秘性がある。朝鮮人労働者は募集がうまくいかず、募集して来てもすぐ逃げる。残っている者たちも仕事の能率が非常に悪い。別に妙案がない。朝鮮人は日本人であり、日本の兵器を作り、日本の理想を生かすために戦っている。従って朝鮮人労働者が労務技術者として大成する前に、労働能率が増進される以前に、まず日本人でなければならない。朝鮮人が立派な労務者になるためには、徹底的に日本精神を体得することが近道だ。そのために朝鮮人労働者ははじめから優秀な機能を持った労務者として訓練させるより、大日本帝国の臣民であり天皇の盾である産業戦士として錬成させなければならない。彼は朝鮮人労働者にこのように力説した。

⁹⁴ 『集成』5、350頁；国民総力朝鮮連盟、1943.9「鉱山、(工場)聯盟仕奉隊組織に関する準則」『国民総力運動要覧』66-75頁。

⁹⁵ 「鉱山、(工場)聯盟仕奉隊錬成ニ関スル準則」『朝鮮労務』第3巻第4号、朝鮮労務協会、1943.9、69-71頁。

お前達は産業戦士だ、銃後で物を作る兵隊なんだ、第一線の兵隊は敵を殺す兵隊、お前達は敵を殺すに必要な物を作る兵隊だ。

兵隊には兵隊の道がある。……

兵隊は天皇陛下の御盾だ、御盾たるものは、自分のことは全然考へないのだ。

天皇陛下に一切を捧げまつてゐるから心の中には、常にお國のこと、大君のこのみがあるのだ。自分のことを一つも考へない心を神心と云ふ、だから日本の兵隊は神兵なのだ。

お前達も、兵隊である以上自分の事を考へないことだ。働く 迄働き抜いて、生産戦士の本分を發揮し、以って宸襟(=天皇の心)を安んじ奉る決心で居らねばならない。

……天皇陛下の御為に自分の一切を捧げまつる生活がわかりかつ実践出来たとき、お前達の職人としての道は、はじめて拓けるのだ⁹⁶。

朝鮮総督府は朝鮮労務協会と一体になって朝鮮人労働者の錬成をより一層督励した。まず、必要な労働力を確保して遊休・不急の労働力を転用するために、徴用令を発動し、勤労報國隊を強化し、徴兵から除外された青年と女子の労務動員を強化した。労働者錬成の対策としては、工場・事業場の仕奉隊運営と錬成要綱の徹底実践、事業主・経営幹部・労務監督者の産業指揮者としての錬成を強調して、工場・事業場の中堅労務者養成は朝鮮労務協会道支部の道中堅労務者指導訓練所を活用して、工場・事業場の機能者養成施設を拡充・強化するように指示した⁹⁷。

上のような錬成の狂風の中で、朝鮮人労働者は一日をどのように送ったのだろうか？ 日本精工株式会社の例をあげてみよう⁹⁸。この会社の取締役支配人品川一郎は、工場を人格の修業道場と定義し、労働者に次のような日課を強要した⁹⁹。①07:00朝礼－各班ごとに人員点呼報告、宮城遥拝、皇国民の信念斉唱(皇国民の信念は「大日本は神の国なり。天皇陛下は現人神なり。我は日本臣民なり。我等は天業翼賛の為に生まれ。我等は天業翼賛の為に働き。我等は天業翼賛の為に死せん)、明治天皇御製一首(千万の 民と共に 楽しむに ます樂は あらじとぞ思ふ)、10分間程度の訓話、開散(工場に出入する時は神祠に礼拝する。各自日本人の心構えを象徴する日の丸の鉢巻を巻いている。中心に日の丸が描かれた鉢巻には天業翼賛と書かれている。開散する時

⁹⁶ 上田龍男、1943.12「朝鮮労務者錬成の方向」『朝鮮労務』第3巻第6号、朝鮮労務協会、33-41頁。朝鮮総督府とその周辺の人々が朝鮮人を皇国臣民として再生させるためには今回の戦争で朝鮮人と日本人が同じ運命に置かれているという点を不断に強調しなければならなかった。上田は朝鮮人に、「お前は日本人なのだ。お前は、大日本帝国の臣民であるぞ、世界に二つとない有難い國の國民だぞ。お前は成程、朝鮮で生まれてゐるに違ひない。朝鮮は風俗、習慣、言語、ひいては、魂が多分に内地と違つてゐるが、さりとて、内地と朝鮮が別々ではないぞ、この大戦は、お前自身の戦なのだ。お前は今強敵を前にして未だ曾て経験したことのない大きな戦を戦つてゐるのだ。内地人が直接戦つて、朝鮮人が間接に協力するのではない。一億一心、死なば諸共の戦をやつてゐるのだ。アメリカや、イギリスは、お前の敵だ、宿敵だ、殺してしまわねばならない憎い憎い敵だ。撃たねばならない。殺さねばならない。若しかして戦が不利であるならば、お前の命はないぞ、お前は永久に救はれることのない米英人の奴隷だ。お前ばかりではない。お前の子孫代々皆同様だ。だから敗けてなるものか、敗けるなんて思ふこと自体が悪いのだ。勝たねばならない。絶対に勝たねばならない。」という信念を注入しなければならぬと主張した。

⁹⁷ 政務総監談、1943.9「生産増強労務強化対策」『朝鮮労務』第3巻第4号、朝鮮労務協会、2-4頁。

⁹⁸ 日本精工京城工場は1938年に設立され、238名の従業員を率いていた。敗戦時の資本金は150万円だった(木村光彦・安部桂司、2003『北朝鮮の軍事工業化』知泉書館、134頁)。

⁹⁹ 品川一郎、1943.9「我社の報恩奉行」『朝鮮労務』第3巻第4号、朝鮮労務協会、48-50頁。

は班長の引率の下、走って入場する)。②入場—工員は機械、職員は机の標識に向かって礼拝する、養成工は安全頌を朗唱する(表紙には日の丸を中心に置いて「御國の宝」「私の兄弟」ということばが書かれている。全員一斉に作業開始)。③11:50全身体操、正午黙禱。④12:00全員食堂に集合、食事—食前食後の感謝の言葉斉唱(従業員が交代で主唱する)。⑤16:20終礼—点呼事故報告、皇国臣民の誓詞斉唱、解散(解散の場合にも班長が引率して走って解散する)。⑥解散後、機械及び現場清掃。

朝鮮総督府は日本に動員される朝鮮人労働者に対しても厳格な錬成を実施した。朝鮮人労働者の動員は「労務動員実施計画による朝鮮人労務者の内地移入斡旋要綱」(1942.1)によって朝鮮総督府と地方庁が直接斡旋する形式に変わった。この要綱によって、道・府郡島・職業紹介所・朝鮮労務協会は朝鮮人労働者を隊組織(1組は5—10人、2—4組で1班、5班前後で1隊を構成)に編成し、斡旋の趣旨、国家的使命、職責の重大さを自覚させて勤労報国の自負心を注入した。朝鮮人労働者を受け入れた日本の関連機関は6ヶ月間別途の訓練を実施した¹⁰⁰。

朝鮮労務協会は朝鮮総督府の方針によって全羅南道光州に労務指導員訓練所を開設し(1942.2.14)、日本と朝鮮西北地方に動員される中堅労働者に対して休日もなく(月月火水木金)労務指導員としての心神と資質向上錬成を実施した。この錬成の目的は、朝鮮人労働者に日本の言語・習慣・風俗を身につけさせ、規律と統制に従う経験を積ませることによって、労務管理上・内鮮一体化上、引き起こされる問題をあらかじめ解消するところにあった。従って教授訓練科目も概して団体観念及び敬神思想の涵養、時局認識及び防諜思想の涵養、簡易簿記、救急法及び保健衛生、礼儀作法、教練、実習などで構成された。入所資格は国民学校(6年制)卒業以上の学歴、25才以上40才未満の思想堅実・素行善良・身体剛健な朝鮮男子、将来道斡旋労働者の班長または団長として一般労働者を統率できる才幹を持ち、郷党青年間に信望が厚く、自ら労働に耐えられる者、であった。訓練期間は大体2週間だった。訓練生の日課は次の通りだった。①06:00起床—寝具整頓、洗面、清掃、②07:00朝会—点呼、拝神、宮城遥拝、黙禱、誓詞斉唱、運動、③07:40朝食—食事前後の感謝、食器洗浄、④09:00—12:00学実科、⑤12:00—13:00昼食—黙禱、体操、食事前後の感謝、食器洗浄、⑥13:00—17:00学実科、⑦17:00清掃—舎内外の清掃、⑧18:00夕食—朝食と同様、⑨19:00—21:00自習—特別教授、常会、座談会、指示注意、自習、

¹⁰⁰ 厚生局労務課、1942.4「労務動員実施計画に依る朝鮮人労務者の内地移入に就て」『朝鮮労務』第2巻第2号、朝鮮労務協会、16-20頁。日本に連行された朝鮮人労働者は関連機関の訓練道場に収容され、就労予備訓練(就労に必要な心構えと予備的知識を教え、産業労働者の基礎的訓練を実施する)、生活訓練(団体生活、規律生活を馴致するとともに、衛生生活、経済生活、日常儀礼、その他一般生活の改善向上を期すること)、作業訓練(現地職場で知識及び技術の指導を図り、作業能率の増進を期すること)、皇民訓練(皇国臣民としての資質を陶冶錬成し、忠君愛国の精神を涵養すること)、体錬(体位の向上を図り、四肢動作を機敏にし、剛健果敢、堅忍持久、規律共同の精神を養うこと)などを錬成した。皇民訓練が特に重視されたが、その内容は①皇民行事に関する事項、②修身公民に関する事項、③国語(会話、読み、書き、作文)に関する事項、④社交儀礼に関する事項、⑤時局認識及び戦時生活に関する事項、⑥敬神思想及び宗教心の啓培に関する事項、⑦情操陶冶に関する事項などだった。訓練期間は6ヶ月で、2ヶ月ずつ3期に分けて段階的に強化していった。一般訓練は道場訓練を終了した者に就労期間中に実施されたが、道場訓練の例を維持して、毎週1回(2時間)以上集団訓練をした。指揮・命令・伝達などは徹底を期するために必ず復唱させ、団体訓練と規律訓練に特に注意をかたむけた。「移入労働者訓練及取扱要綱」1942.4「労務動員実施計画に依る朝鮮人労務者の内地移入に就て」『朝鮮労務』第2巻第2号、朝鮮労務協会、29-39頁。

⑩21:00点呼一点呼、拝神、宮城遥拝、誓詞斉唱、⑪22:00就寝。学実科は上記の教授訓練科目であるが、神社参拝・国体明澄・体操・渡航上の注意などが追加された。この訓練所は1－6回までの間に445名の修了生を輩出した¹⁰¹。朝鮮労務協会は慶尚南道と京畿道にも訓練道場を設置して上と類似の方法で挺身報国思想と皇国勤労精神に透徹した産業戦士を錬成した¹⁰²。

鉄鋼統制会のような部門別産業団体でも、日本に動員される労働者を錬成した。黄海道の兼二浦に建てられた(1943年末完工)鉄鋼統制会朝鮮訓練所は、国家の基幹労働者である鉄鋼産業戦士に皇国精神を植え付け、日本の生活様式に熟達するように陶冶錬成を実施した。訓練生の日課は次の通りだった¹⁰³。①06:00起床－朝点呼、②06:30朝礼－所長に対する敬礼、国旗掲揚、神宮遥拝、国家奉唱、勅語奉読、武運長久祈禱、故郷に対するあいさつ、誓詞斉唱、「我らの覚悟」(「我ら訓練工は堅き決意を以て凡ゆる苦しみ耐へ、克く教訓を守り、進んで立派な鉄鋼戦士となり、大東亜戦争に必ず勝ち抜きます」)朗唱、③07:30朝食、④08:30錬成、⑤12:00昼食、⑥13:00錬成、⑦17:40国旗降下、⑧18:00夕食、⑨18:30内務の躰、⑩19:30修養講義、⑪20:30夕点呼、国民儀礼、反省の言葉(「一 今日一日教へに背きしことなきや、一 今日一日努力の足らざりしことなきや、一 今日一日嘘を云はざりしや」)暗唱、⑫21:00消燈。精神教育の主題と資料は、「教育勅語」、「徴兵の詔書」(1940.2.11)、「韓国併合の詔書」、「戊申詔書」、「青少年学徒に賜りたる勅語」、「国民精神作興に関する詔書」、「米国及英国に対する宣戦の詔書」、「陸海軍人に賜りたる勅諭」、「戦陣訓」だった。情操教育では植物栽培、軍歌、拝神行事、静坐法などがあつた。学科としては国語(朝鮮総督府編纂教科書による)、国史(朝鮮総督府編纂教科書による)、数学を学んだ。術科としては徒手各個教練(不動の姿勢と休め、室内外の敬礼、右左向後向、半右左向、駆足行進、復命復唱の要領、速歩による駆足、駆足による速歩、速歩行進、走高跳び、物品授受、伝令、送伝の要領、連絡兵の動作)、部隊教練(分隊整頓要領、伍の重複分解、横隊整頓、閲兵分列行進要領、方向隊形変換、中隊編成、疎開教練の初歩、中隊の方向隊形変換)、徒手体操(基本体操、職技体操、手榴弾投擲)などを身につけた。作業としては器具の使用法、農耕作業、土木作業、製鉄作業の概念及び基礎作業、製鉄所諸作業見学実習などが賦課された。このように鉄鋼統制会朝鮮訓練所入所生には起床から就寝まで常住坐臥すべてが訓練であり錬成である日課が4週間毎日反復された。そして4週間の訓練期間が終わると入所時とは別人に変貌した。この訓練所は5回にわたって1200人を輩出した。そして1944年3月から毎月600－700人を訓練させる計画だった。

徴用で連れて来られたような学生に対しても、これと似た錬成を実施した。彼らは午前6時起床サイレンによって寝床を飛び起きて、朝点呼、朝礼、体錬体操、教練、剣術体操、精神教育、反省

¹⁰¹ 荒金生、1942.4「全羅南道労務指導員訓練所を視る」『朝鮮労務』第2巻第2号、朝鮮労務協会、86－88頁；「朝鮮労務協会支部通信－全羅南道労務指導員訓練所の概況」1942.6『朝鮮労務』第2巻第3号、朝鮮労務協会、69－80頁。

¹⁰² 「朝鮮労務協会京畿道支部労務訓練道場開所」1943.2『朝鮮労務』第2巻第6号、朝鮮労務協会、79頁。

¹⁰³ 山本友太郎、1944.2「半島労務者の訓練－鉄鋼統制会朝鮮訓練所」『朝鮮労務』第4巻第1号、朝鮮労務協会、7－10頁。

日記指導など、寝床に入る夜10時まで休む暇もなく行の錬成を繰り返した¹⁰⁴。

(4) 農民

朝鮮総督府は国家総力戦体制で農業開発が戦力増強に直結する重要課題という点を非常に強調した。それを象徴する標語が農業報国であり、実行方法として前面に押し出したのが勤労精神醇化、部落共同力結集、労働力供出、農業生産組織合理化などだった。そしてこれらすべてのものを解決する万能手段として動員したのが農民の錬成、すなわち皇国農道昂揚運動だった。

皇国農道の論理によれば、皇国日本の国土と穀稷、すなわち社稷はすべて皇祚神の延長である天皇が治めるものだった。従って日本の社稷は単純な物的存在ではなく神の所産であり、神意が宿るものだった。そのために国民は神聖不可侵なこれを奉護し、斯業に従事することによって大君に忠義を尽くし、皇朝の神寵を敬わなければならなかった。しかし、皇国臣民教育がまだ半分程度しかなされていない朝鮮農民に皇国農道の真髄を悟らせるのは至難の業だった。従って誠意と良言によって説得し、窮理と方法で施行し、朝鮮農民の精神生活の空白を埋めなければならないのである。これがまさに農民錬成である。農民錬成のためには農村振興運動以来官公の指導を受け入れてきた篤農・精農、農民道場などで養成された中堅青年、陸軍志願兵として農民訓練を受けて帰ってきた在郷軍人などを活用して指導陣営を構成しなければならない。彼らが朝鮮農民を組織的に指導することによって、皇国農道の理解と農業報国の実践を成し遂げなければならないのである¹⁰⁵。

朝鮮総督府と関連団体は、農民錬成のために全国に農民道場を開設した。農民道場は農村振興運動にかみたてるために作った農民訓練所を拡大・強化したもので、1942年末現在、道立19、部落会と郷校財産が建てたもの10、私立3、短期15、婦人7など、合計54ヶ所であった。訓練期間は1年(短期は1ヶ月)、収容人員は30-40人だった。道場生は所在地郡守の推薦で選抜した。日課は概略午前には学課と実行の基礎訓練。午後に実習であったが、朝5時から夜9時までぎっしりと組まれていた。その中でも営農体験を通じた日本農道精神の注入を最も重視した。農民道場は大体田畑10町歩、山林10町歩を実習地として所有したが、ここで生産されたものは道場内の組合と殖産契で処理した。道場生は寄宿舎で生活する一方、独立の擬製農家にも分宿しながら農家経営を実習した。彼らは毎日農舎(寄宿舎)の神棚に朝夕礼拝し、道場の神社前で毎朝行事を挙行了¹⁰⁶。

農民道場は農村の優良な青年を選抜して合理的営農を学ばせ、皇国臣民の生活を訓練して農村指導者に育成しようという目的を持っていた。忠清南道儒城の農民道場は、道場生5人を一つの家族に編成し、合計12戸の農村部落を構成し、実際の農家生活を営みながら皇国農道を錬成させた。道場内に大麻奉祀殿、各農家に神棚を置いて朝夕礼拝し、国体明徴、敬神崇祖、感謝報恩、内鮮一体を確かめ合うようにした。皇国臣民としての精神生活を修練したのである。春には祈

¹⁰⁴ 坂下一郎、1944.2「徴用されし学徒の訓練生活を見る」『朝鮮労務』第4巻第1号、朝鮮労務協会、11-12頁。

¹⁰⁵ 「皇国農道の昂揚と食糧増産」『朝鮮行政』246号、1943.4、230-238頁。

¹⁰⁶ 「座談会 錬成を語る」『朝鮮行政』234号、1943.1、37-38頁。

年祭を執り行い、秋には御殿に初穂を捧げる感謝祭を挙行了。毎月17日には講堂に祭壇を作って、職員・生徒一同が皇国臣民の精神を懇求する祭を行った。生活刷新にも力を注ぎ、責任生産、軍需品供出、廃品利用に努め、農村娯楽として綱引き、民謡、運動会、品評会、文庫、映画、紙芝居、ラジオ、蓄音機、園芸などの体験もした。錬成期間は6ヶ月だった¹⁰⁷。平安北道や黄海道の農民道場でも、国体明徴、敬神崇祖、内鮮一体、国語常用、陸軍特別志願兵の意義と実践、日本式の風俗と食事、職業指導、体力増進、修養勉学、生活刷新、娯楽などを錬成したが、あらゆる訓練は皇国臣民としての生活を体験することに帰着した¹⁰⁸。

決戦の状況に直面した朝鮮総督府は、農業生産の増強に没頭するために、1943年7月農業増産実践員を全国各部落に1名ずつ配置することと決定した。彼らは府尹、郡守、島司が選考し、道知事が任命した。合計7万名に達する実践員は、皇国農道を先導する役軍だった。彼らは総じて農民道場、補習学校、朝鮮総督府陸軍特別訓練所やその他訓練機関を修了した30才以下の青年で構成されていた¹⁰⁹。

朝鮮農民の錬成で特記するに値するのは、朝鮮農業報国青年隊の日本農村研修であった。朝鮮総督府は全国農村で選抜した中堅青年を、青年隊に編成し日本農村に派遣し、1ヶ月余の間営農生活を体験させることによって、先進農法を学んで日本精神と日本の風俗を体得させた。日本で「内鮮間の隣保相助」を実践した青年隊員が朝鮮農村の指導者として根をおろせば、農業報国と内鮮一体の礎石になると期待したからである。青年隊派遣のもう一つの目的は、徴兵などで労働力が不足した日本農村を助けるところにあった。南総督は朝鮮農業報国青年隊決断式(1941.6.2)で次のような訓示をした。

第一は日本精神の真髓を把握せよ。諸子は選ばれて青年隊員となり、内地に派遣せられるのであるが配属地に於ける家庭生活並に環境を通じ又聖地の巡拝に依り日本精神の真髓に触れ皇国臣民としての自覚を堅確にせられたいのである。第二には、内鮮一体の具現に進進せよ。応召農家配属中は挙措言動を慎むと共に速に地方の習俗を諒得するに努め以て内鮮一体の具現徹底に努められたいのである。第三には不屈不撓の精神を旺盛にし、如何なる困難にも打ち克つて克く其の使命をを完遂し半島青年たるの名に背かざるやう懸命の努力を払はれたいのである。内地農村は、今幾多の将兵を戦場に送り又不足資材を克服して、老幼を挙げて銃後奉公にいそしんで居る。

諸子は終始真剣なる態度を持ち汗を通じて内地を学び一層錬成された皇国臣民として帰還し 朝鮮農村の為挺身報国の誠を竭すやう切望して已まぬ¹¹⁰。

上のような使命を帯びて、全国13道の農村から選抜された中堅青年3百余名は、1941年6月2日

¹⁰⁷ 趙宇植、1943.5「儒城農民道場を見る」、『東洋之光』51-52頁。

¹⁰⁸ 湯浅克衛、1942.5「ルポルターージュ 温床の種種相－農民道場と女子訓練所」『朝鮮行政』第21巻第5号；湯浅克衛、1942.3「ルポルターージュ 温床の種種相－農民道場と女子訓練所」『朝鮮行政』233号；湯浅克衛、1942.4「ルポルターージュ 温床の種種相－農民道場と女子訓練所」『朝鮮行政』234号。

¹⁰⁹ 『朝鮮行政』249号、1943.7、29頁。

¹¹⁰ 『集成』5、488頁。小磯総督も1年後(1942.6.1)朝鮮農業報国青年隊結団式でよく似た内容の訓示を行った。

に京城を出発して、7月11日京城に到着するまで、山口・広島・岡山・島根の優良農村13ヶ所に配属され、1ヶ月間勤労奉仕をした¹¹¹。小磯総督以後にも、朝鮮農業報国青年隊の錬成は、石川県、長野県などで実施された¹¹²。

朝鮮総督府は農民指導者に皇国農民道を鼓吹することが食糧増産と農民錬成を促進し内鮮一体を具現する近道だと考え、全国各道の農民道場と農業補習学校職員20人で農民道場職員錬成隊を組織し、長野県諏訪郡八ヶ岳中央修錬農場(農村更生協会経営)に派遣した。土を通じて農魂を鍛錬することで、指導者としての資質を向上させるという目的だった。日程は次の通りだった。1943年5月1日京城出発、5月3日八ヶ岳修錬農場到着、6月2日まで錬成、6月3日宮城、明治神宮、靖国神社参拝、6月4日日本農業大学見学、6月5日山本元帥国葬、日比谷沿道で送葬、帰国途中、岡崎市の追進農場見学、京都の桃山御陵参拝、6月9日京城到着。八ヶ岳修錬農場は標高1300メートルの高地に位置していたが、1年間に延べ2万名以上が錬成しながら35町歩を耕作した。錬成の日課は①05:00起床、朝礼、日本体操、作業、②07:00朝食、③08:30-11:30作業、④12:30昼食、⑤13:30作業だった。錬成は皇国臣民としての気魄を植え付けるのに焦点があてられていた。朝食前に冷たい溪谷の水で禊をして、3里を駆歩した。耕作の間は黙々と仕事だけをした。作業は主に開墾、抜根、新田耕し、馬鈴薯・とうもろこし植え付け、麦畑の追肥、土入れ等であった。錬成は当初勤労一本による心身錬磨が中心だったが、最近の学課も共に身につけた。ただし精神的なこと、すなわち古事記などの古典と偉人の遺訓など日本精神に関連した錬成が多いのは相変わらずだった¹¹³。

1940年から1944年まで日本に派遣された朝鮮農業報国青年隊は3千余名に達した。当初は毎年百数十名規模だったが、後には7百余名に増えた。彼らは4つの県に分散配置され、皇国農道の体得と内鮮一体の実現という名分のために汗を流した¹¹⁴。

(5) 女性

朝鮮総督府は女性の錬成にも心血を傾けた。朝鮮人の皇国臣民化を完全に達成するためには、女性、特に母親の錬成が必要だと考えたためである。日本人によれば、朝鮮人の人生観・世界観には儒教思想が濃厚に染み付いており、日本のような忠孝一本の道義、すなわち天皇に忠義をつくすことによって孝を成し遂げるといった道徳意識がまだ充分ではなかった。その背景のひとつが父母教育、特に母親教育の欠陥だった。日本では母親が軍隊に行く息子に、喜んで行ってきなさい、忠義を果たせず帰ってくれば世の中に顔向けできない、といった風に話すのが社会の大きな道義の雰囲気だが、朝鮮では病気だとか家に仕事をする人がないといった言い訳をして軍隊に送りださないようにする。これは一朝一夕に正すことはできないが、社会教育、特に母親教育を通じて正

¹¹¹ 朴鍾秀、1941.9「営農の 内鮮交驩(営農の内鮮交驩)」『朝光』第7巻9号、70-76頁。

¹¹² 金沢満(朝鮮農業報国青年隊慶北班長)、1943.7、「皇農に生きる—石川県福奥村から—」『朝鮮行政』249号、30-39頁；1944.2「農業技術員の修錬」(農業技術員修錬所職員内地錬成報告座談会、2月5日、本府第2会議室)、『朝鮮行政』23巻2号、2-9頁。

¹¹³ 階川綴字、1943.6「八ヶ岳農場の体験を聴く」『朝鮮行政』248号、34-38頁。

¹¹⁴ 樋口雄一、1998『戦時下朝鮮の農民生活誌 1939-1945』240-243頁。

すべきだというのが朝鮮総督府の見解であった¹¹⁵。

朝鮮総督府は農民道場の設置とともに農村中堅婦人訓練所を設置した¹¹⁶。次世代を養育する女性を錬成することによって、根底から朝鮮人の皇国臣民化を固めたのである。忠清南道農村中堅婦人訓練所(大田と儒城の中間に位置)は、若い女性を入所させて農事と育児などの家事を教えた。そして毎朝夕に「母親の行」を教習した。これは単純な農作業ではなく、母親になるための準備であった。育児法、園芸、金銭収納簿整理、衛生、料理法など、母親としての生活を教育したが、教育の重点は日本語を一言も話せない農民に嫁いでも、夫・家庭・部落を導いていくことができる能力を揃えた中堅婦人を育成するところにあった。従って日本語学習、常会などの案件を理解できる時局認識、共同作業参加態度、国民儀礼などを重視した。入所生は毎朝5時に起きて田畑を耕し、近隣の子どもを世話した。訓練期間は11ヶ月だった。卒業生の半分は農家に、半分は官吏に嫁いだ。訓練生30人の構成を見ると、自作農の娘6人、小作農の娘5人、自小作農の娘18人、官公吏の娘1人で、概して農村の中堅独身女性であった。婦人訓練所は実生活訓練が学校に比べてはるかに徹底していたため、結婚申請が殺到するという評判を得た。朝鮮総督府は朝鮮人の半数に該当する女性を錬成しなければ、男性をどんなに立派な皇国臣民にしたとしても内鮮一体を成し遂げることができないと考えていたのである¹¹⁷。

朝鮮総督府は徴用・徴兵などで男性の動員が拡大されると、女性労働力を開発してこれを錬成するために1944年4月1日から全国府邑面に朝鮮女子青年錬成所を設置した¹¹⁸。そして16-17才までの国民学校未就学未婚女性は、この訓練所で年間600時間の皇国臣民化教育を受けた。朝鮮が臨戦態勢に即応するためには、今後婦女子も直接尽忠奉公に挺身しなければならないというのが朝鮮総督府の方針だったのである¹¹⁹。

(6) 官公吏

官公吏は日本の朝鮮支配を貫徹させる支柱であり神経といえる。戦況が悪化し、朝鮮で総動員体制が強化されればされるほど官公吏の役割は増大した。そして朝鮮総督府や国民総力朝鮮連盟などは官公吏の錬成に力を注いだ。

小磯総督は府尹などとの会見(1943.3.6)で、全国の官公署が今月から一斉に錬成に突入すると宣布し、官公吏は集団訓練を通じて没我の心境に入っていく、私心を公心に変えて、身体の剛健を図り気魄を旺盛にすることによって、皇道行者としての本質を培養せよと指示した¹²⁰。小磯総督はまた道知事会議(1943.4.6)で、官公吏の錬成のために朝鮮総督府指導者錬成所を設置する

¹¹⁵ 「座談会 錬成を語る」『朝鮮行政』234号、1943.1、29-30頁。

¹¹⁶ 女性を受け入れた農民道場が設置されたのは1939年からであった。朝鮮総督府農林局は1940年12月に長期婦人訓練所11ヶ所、短期婦人訓練所7ヶ所を設置するという計画を発表した。入所資格は17才から22才までの独身女性だった。1942年3月現在、6ヶ道に設置されて210人を受け入れた。そして1941年5月には各道から女性指導者160人を選抜して岩手県六原農民道場に派遣して錬成した(樋口雄一、前掲書、232-233頁)。

¹¹⁷ 湯浅克衛、1942.2「ルポルタージュ 温床の種種相－農民道場と女子訓練所」『朝鮮行政』232号、13-18頁。

¹¹⁸ 錬成課、「朝鮮女子青年特別錬成所ノ概況」、『日帝下戦時体制期政策史料叢書』(民族問題研究所編)22、韓国学術情報株式会社、2000、227-228頁。

¹¹⁹ 「朝鮮女子青年錬成所規定制定さる」『朝鮮』346、1944.3、92-94頁。

ので、各道でもこれに呼応して地方指導者錬成を推進せよと促した¹²¹。小磯総督は大日本帝国の中枢をなす官公吏こそ、錬成を通じ皇軍将兵のように一身一家の私情を越えてひたすら現人神天皇を推戴して大東亜共栄の大義を実現することのできる資質を体得しなければならないと力説した¹²²。

朝鮮総督府は「修養錬成の徹底的実践要綱」を制定して、1943年3月1日から実行に入っていた。錬成の対象者は、官公吏、民間の幹部と幹部になる人、主要会社・銀行・組合・工場・鉱山・事業場の職員、中等学校以上の学生・生徒、官公吏養成機関と類似機関で修業中の者などであった。学務局錬成課が一切を統制するものの、官公署・団体・会社・工場・鉱山・事業場などの幹部は自ら陣頭に立って決戦の姿勢で錬成を推し進めなければならなかった。朝鮮総督府は1944年から京城に皇道修錬院を開設して、官民の修養錬成を指導する一方、附設道場の指導者を直接錬成した¹²³。

官公吏錬成の具体的な様子は、京城近郊の駱駝山山麓に位置した京畿道修練道場（1942.8.31竣工）の事例を通じて知ることができる¹²⁴。京畿道は1941年6月から11月まで6回にわたって、朝鮮総督府教学研修所を借用して、各府郡職員の士気鍛錬会を開催したことがあった。このような実績を土台として、1943年2月22日小磯総督の参席のもと、専用修練道場を開所して、第1回修練生として京畿道内各府郡の国民総力事務担任属官、同嘱託40人を入所させて、禊行を中心に5日間の錬成を実施した。その後一ヶ月余の間9回にわたり、道庁内内務産業部各課長、各課上席主任属官、府尹郡守、各郡内務課長、大日本婦人会京畿道支部幹部、邑面職員などを錬成したが、期間は短期3日、長期5日であり、1回に50人前後を受け入れた。

京畿道修練道場は①忠に徹する、②土心を養う、③誠を啓する、などを鍛錬綱領として掲げた。入所生は教士と起居を共にして、清楚な生活環境で厳粛に行事・学課・研究を行った。実習要目は、①聖詔を謹読謹写する、②明治天皇御製を拝誦する、③禊祓を遂行する、④団体訓練及び勤労作業をする、⑤聴講参学する、⑥読書尚友する、⑦自発研鑽する、などであった。そして道場清規としては、①襟懐清明なること一旦夕神明を拝し、澄身正身、常に清明心で求道精進すること、②坐作礼讓なること一道友お互い乳水のごとく相和し、坐作言動が真に礼儀輯讓なること、③規律節度あること一知行は不二であり、百行すべて当節を失わず威儀端正なること、④寝食宜に適切なること一食は報本反始の考えでこれを受けて、終わりまで咀嚼し、眠る時は虚空の如く深淵なること、⑤道場を浄護すること一道場は私たちの心身であり、汚してはならず傷つけてもならない、当然常に清浄なること、などを打ち立てた。入所生の生活はあたかも日本神道の宗教寺院に修練修養するようなものだった。彼らの日課は次のようだった。①05:00起床、軍隊式の厳格な規律下で日朝点呼、洗面、禊、朝拝、清掃など、②08:00朝食（5勺の粥、梅干2ヶ、胡麻塩少量）、③09:00—13:00聴講参学（1単位2時間ずつ）、④13:00—16:00行修（禊、拝神）、⑤17:00夕食（5勺の粥、梅

¹²⁰ 『集成』6、156-157頁。

¹²¹ 『集成』6、202頁。

¹²² 『集成』6、393頁。

¹²³ 『集成』6、132-133頁。

¹²⁴ 本田忠吉、1943.4「京畿道修練道場訪問記」『朝鮮行政』246号、225-229頁。

干2ヶ、胡麻塩少量)、⑥18:00—20:00聴講参学あるいは練習、⑦20:00夕拝、⑧21:00日夕点呼、就寝、⑨22:00消燈。

朝鮮総督府が一瞬の暇もなく錬成をして育成しようという官公吏の究極的な姿はどのようなものであろうか? 彼らは天皇の尊厳ある威勢を畏敬し、祖先の厳粛な遺風を鑑とし、誠心誠意を尽くして皇国の道を磨き、尽忠至誠・滅私奉公に努め、皇国日本の新しい生活を朝鮮に建設する指導者になることだった。

3) 朝鮮人の対応

(1) 協力

皇国臣民の錬成は朝鮮統治のあらゆる問題と関連していたために、これに対する朝鮮人の対応も意識と生活の全般にわたって実に多様だった。ただし、本稿では紙幅の制限もあるために、錬成という用語と直結する範囲内で、協力・同化・逸脱・抵抗の事例を一、二紹介することと定める¹²⁵。

朝鮮総督府とその運動組織である国民精神総動員朝鮮連盟・国民総力朝鮮連盟などは、皇国臣民錬成の推進主体であった。従ってその組織に属する朝鮮人官吏や幹部、そして末端指導者、愛国班長などは、全て協力者であると考えられる。彼らは国家総力戦という不回避な状況でやむを得ず協力したと見られるが、中には率先垂範を示そうと努めた者もあった。各道の朝鮮人知事がそうであった¹²⁶。

忠清南道知事金川聖は、朝鮮総督府が国民総力や臣道実践などについて、いくら通牒を乱発したとしても、部落の朝鮮人の中で日本が今どんなことを遂行しているのか知る者は、いい部落でも2—3人にすぎないと考えた。このように無関心な大衆を錬成するためには、官庁万能主義では不可能で、愛国班を利用し、直接家庭の中に掘り下げていかなければならないと主張した。彼は愛国班を皇国臣民錬成における骨であり手足であると考えた。そうして1940年11月1日を期し、所轄区域に一斉に愛国班を組織して、自ら範示を示しながら指導に立った。朝鮮全体の指導者は総督で、その一翼を担当するのが道知事だと考えたからである。彼の家族は朝のサイレンで一斉に起床し、顔を洗った後、一列横隊に整列して東天の天皇を思い厳粛に宮城遥拝をした。彼は雨の降る日や雪の降る朝でも一日もこれを欠かしたことがなく、小さい子どもまでもが習慣になってしまったと自慢した。

黄海道知事金村泰男、全羅北道知事李家源甫、平安北道知事高安彦、全羅南道知事武永憲樹などもこれと似たような協力をした。全羅北道では各学校に青年訓練所を設置し、皇国臣民錬成の内実を期した。平安北道では1941年2月から多獅島築港工事場に国民総訓練勤労道場を開設し、17才以上29才以下の青少年に40日間精神訓練、健全娯楽、体力鍛練、国防訓練などを実施した。全羅南道では日本精神の注入に最も力を注ぎ、戸ごとに大麻を奉斎し、夜学などで日本

¹²⁵ 朝鮮人が皇国臣民化政策をどのように理解していたのかについての全般的な内容は변은진(ピョン・ウンジン)、2002「일제의 식민지통치논리 및 정책에 대한 조선민중의 인식(日帝の植民統治論理及び政策に対する朝鮮民衆の認識) (1937-45)」『韓国独立運動史研究』14、独立記念館、を参照のこと。

¹²⁶ 「우리 道の 新体制(わが道の新体制)」『朝光』第7巻3号、1941.3、288-312頁。

語講習を受けるように強要した。小磯総督は朝鮮人が皇国臣民になろうと錬成に錬成を繰り返している姿を日本と東アジアに広く宣伝することによって、自身の統治を合理化した¹²⁷。

(2) 同化

疾風怒涛のような錬成運動が、朝鮮人をどれほど皇国臣民にしたのか、正確に把握することはできない。しかし、大多数の朝鮮人が意識的であれ無意識的であれ、皇国臣民の人間像に似ようと努力するふりをしたと推察される。情報流通が遮断され、未来の展望が不透明な状況で、朝鮮民衆が強圧を伴う官民一体の人間改造キャンペーンを拒んで、自身のアイデンティティを守りぬくのは非常に難しい事だった。そして、各種訓練所や修練道場で強度の高い錬成を行った青年の中には、以下のように同化の傾向を見せる場合もあった¹²⁸。

朝鮮農業報国青年隊の一員として1943年に日本の金沢市近くで1ヶ月位錬成して帰ってきた金沢満は、隊員すべてが日本の団欒のある家庭生活、美しい共同作業、食糧増産のための老若男女の挺身、醇厚な人情、厳格な子女教育、卓越した指導者の資質、徹底した神仏信仰、明快虚心の言動などから多くのことを学んだと語った。そして配属された日本の農村が「新しい親戚」と呼んでくれた信義に報いる道は、ただひたすらそこでの貴重な体験を糧にし、精魂込めて黙々と食糧増産に邁進して敢然として大君の盾になること、すなわち日本農民の姿をそのまま故郷の農民の前に再現させることだと決意した。

配属農家の日本人は、従来朝鮮人が総じて日本人としての資格を備えられなかったと感じていた。すなわち日本精神とは非常に縁遠いと考えていた。しかし今回朝鮮農業報国青年隊と接して、朝鮮人が皇国臣民になることができるということを悟った。朝鮮青年は日本農家に配属され、まず出征軍人の写真に武運長久の黙禱をささげ、空闲地に甘藷の苗を植えて、旱天の日には必ず水をやって作物を愛撫した。そのように熱心な態度は、日本民族としての血潮が、家族としての熱情が朝鮮人にも脈々として流れているという証拠であった。日本人は朝鮮青年の和気藹藹とした姿を見て、朝鮮農業報国青年隊が目標として掲げた内鮮一体が実現できると期待したという。

軍務予備訓練所で錬成した平山・高野・月城・高山などの朝鮮人青年は、ここでの40日訓練が、国民学校4年以上の効果があったと評価した。彼らは日本での精神的訓育を通じ、協同と団結がどれほど重要なことであるのかを感じた。そして故郷に戻り、学んだことの実践に率先しようと決意した。入所生の大部分が貧しい僻村出身で正規の教育を受けられなかったもので、より一層そうだったのかもしれないが、錬成を通じて皇国臣民に変貌する傾向をうかがうことができる¹²⁹。

小磯総督も表面に表れる朝鮮人の変化する様子を肯定的に評価した。彼は1943年7月に一週間忠清南北道と全羅北道を巡視した所感として、各道の間には多少の違いはあるが、概して朝鮮人が進撃浚刺と修養錬成に邁進していると語った。軍人の目で見れば、視察中に堵列して出迎えて

¹²⁷ 『集成』6、523頁。

¹²⁸ 松田謙一郎、「朝鮮農業報国青年隊として中塩田村に学ぶ―長野県に配属せられて」『朝鮮行政』249号、1943.7、35-40頁。

¹²⁹ 「始興第三軍務予備訓練所第二期生座談会」『朝光』第10巻9号、1944.9、80-89頁。

くれた人々の姿勢・態度・目の色から確実に錬成の成果が躍如としたというのである¹³⁰。

小磯総督はまた、始務式訓示(1944.1.4)で「修養錬成の効果面と不及面」をこのように評価した。朝鮮人は官民の真摯な努力と錬成道場への参加を通じ、姿容態度が目覚しく変わり、上下公私の秩序が日増しに安定し、一億一心の期待を持つようになった。特に学校の指導錬成と青年訓練所の特別錬成が家庭にまで効果を及ぼし、家族がすすんで青年を道場に送って青年・学徒が自ら入隊を志願する。従って朝鮮で修養錬成の効果は順次軌道に乗り、朝鮮人も国体の本義を把握して国家総力戦にふさわしい資質を備えるようになった。しかし朝鮮在住日本人の中に、朝鮮人が隊伍を共にできない存在だと固執したり、朝鮮人の中でも差別待遇を完全に撤廃して内鮮無差別の一体化を強弁したりする者があるのを見ると、朝鮮人の修養錬成効果は入門の域でさまよっていると云わざるをえない。そのために小磯総督は朝鮮を離れる最後の日まで朝鮮人を皇国臣民として錬成するのに没頭したのである¹³¹。

(3) 逸脱

学校は教育の体系と方法が全一的に確立されているため、皇国臣民錬成の効果がよく現れる部門だった。しかしながら朝鮮人学生は本能的に錬成の虚偽性を実感し、わざわざ皇国臣民の本分から脱け出す行動をする場合が多かった。従って朝鮮人学生が日本人学生と一緒に勤労働員に行ったり神社参拝をしたりしても、それを受け入れる考えと姿勢は互いに異なっていた。

京城中学の日本人学生が残した記録によると、日本人学生は陵谷の勤労働員で先生と一緒に泥だらけになって汗を流したことを、師弟同行して全心全力で奮闘した人間育成の実践道場として評価した。当局が口癖のように強調した勤労働員の錬成効果をそのまま信じたのである。ところが朝鮮人学生はそうでなかった。彼らは荷物を背負って行っても、休息の号令がかかると、道端などにどさどさと荷物をぶちまけて、あざ笑うような笑いを浮かべた。これを見た日本人学生は朝鮮人学生があたかも立ち小便するような感覚で勤労働員に臨んでいると感じた。そして狡猾で怠けた朝鮮の奴らに、内鮮一体とか国家総力戦とか学徒動員とかをどんなにうるさく言っても、結局意識の差はやむを得ないと考えた¹³²。京畿公立中学校の朝鮮人学生たちは、金浦飛行場建設工事に勤労働員されたが、作業が怠慢だと言われて日本人教師にひどく殴打されると、彼に群れをなして小石を投げて京城へ追い返した¹³³。

朝鮮人学生は皇国臣民教育を額面通り受け入れなかった。金寿煥枢機卿は東星商業学校卒業班(1940年、18才)の時、倫理の試験で、「日本天皇の勅諭を受けた皇国臣民として、その所感を書け」という問題が出ると、民族的自尊心と若い血気で反抗心が騒ぎ、一時間の間ぴくりとも動かずに座っていたが、鐘が鳴る頃に短く、①私は皇国臣民でない、②従って所感がない、と書いたと

¹³⁰ 『集成』6、173頁。

¹³¹ 『集成』6、476-477頁。

¹³² 高橋幹也、「夏のコンサート」(『潮流』第8号、2003.7)92-94頁；朝鮮人学生の中には毎日続々勤労働員に嫌気がさして学校と教師を憎んだり、はじめから学校をやめる場合もあった(유종호(ユ・ジュンホ)、2004『나의 解放前後1940-1949(私の解放前後1940-1949)』民音社、72-73頁)。

¹³³ 京畿九十年史編纂委員会、1990『京畿九十年史』京畿高等学校同窓会、189-190頁。

いう¹³⁴。日本の中央大学に通っていたが学兵として引かれていった劇作家韓雲史は、京城府民館で開かれた壮行会で、「総督は私たちが行った後に、朝鮮人2500万人の将来を確実に保障してくれるのか、明確に答えてくれることを願う」と小磯総督に問い詰めたが、「そのようなことを疑う者は皇国臣民としての訓練が不足すると思わざるをえない」との叱責を受けたという¹³⁵。当時京畿公立高等女学校学生だった英文学者羅英均の回顧によれば、朝鮮人学生が見るとき、日本人の習慣の中で最も馴染めないのはまさに天皇に対する行き過ぎた礼だった。校長が白い手袋をはめた両手で勅書を頭の上まで高くあげて歩いていくのは率直に言って見苦しかったし、神社の前で手拍子を打って手をついて礼をするのも観客の好奇心で眺めることであって、まじめに朝鮮人学生が追随することはないと考えた¹³⁶。朝鮮人学生の上のような考えと行動は、日本の皇国臣民化政策に正面から対抗し戦ったものではないが、少なくとも錬成の趣旨とは完全に背馳することだった。いや、消極的な抵抗、あるいは逸脱の表現と見ることができる。

皇国臣民錬成に対する朝鮮民衆の広範な逸脱は、各種の統制法令の違反からも察することができる¹³⁷。経済法令違反で経済警察と検事局の処分を受けた朝鮮人の数は、1940年以後急増した。その背景には食糧・繊維製品など生活必需物資の需給逼迫、民心の不安増大、末端配給統制の不備、全般的なインフレ傾向などがあつたが、皇国臣民の錬成がきちんとされたならば克服できる懸案だった。しかし朝鮮民衆は、戦争は日本人がすることで、朝鮮人は闇取り引きをしてもたらふく食べるべきだとの思いで、経済警察の取り締まりに対しても露骨に敵対的ないし反日的言動と態度を見せた。朝鮮人の労務動員が集団募集(1939.9開始)、官斡旋(1942.3開始)、徴用(1944.9開始)と強化されていくと、労務関係法令の違反も増加した。例を上げると動員対象になつた朝鮮人の中に、選考に出頭しなかったり、労務動員自体を忌避する傾向が現れた。ひどい場合には作業場から逃げたり、暴動を起こしたりするなど、様々な抵抗を試みた¹³⁸。

(4) 抵抗

朝鮮総督府は学生の体力鍛練と戦闘能力を向上させるという名目で、1939年から全国で戦力増強国防競技大会を開催した。競技種目は早駆継走、団体障害物競走、非常召集、担架継走、土壌運搬継走、手榴弾投擲、綱引き、連絡競技、輜重任務など、忍苦鍛練と実戦実技に役立つものが大部分だった¹³⁹。

朝鮮人学生が皇国臣民の錬成過程から集団的に抵抗した事例としては、釜山東萊中学校の場

¹³⁴ 中央日報、2004.2.5

¹³⁵ 中央日報、2004.2.11

¹³⁶ 나영균, 2004 『일제시대, 우리가족은』 황소자리出版社、205頁(日本語版: 羅英均、2003『日帝時代、わが家は』みすず書房)。

¹³⁷ 松田利彦、2002「総力戦期の植民地朝鮮における経済統制法令の整備と『犯罪』」『世界の日本研究』2002国際日本文化研究センター。

¹³⁸ 『集成』6、622頁。

¹³⁹ 学校体育と国防訓練などの強化過程については西尾達雄、前掲書を参照のこと。大野政務総監は各道学務課長及び視学官会議(1939.5.29)訓示で、「体育ノ目的ガ身体運動ヲ通シテ心身ヲ鍛鍊シ以テ国家ノ負荷ニ堪ヘ得ル国民ノ錬成ヲ企図スルニ在ル」と強調した(渡部学編、1987『日本植民地教育政策史料集成』(朝鮮篇)14、龍溪書舎、479頁)。

合を挙げることができる¹⁴⁰。釜山公設運動場で開かれた第2回大会(1940.11.23)で、審判を独占していた日本人官吏と配属将校は、民族差別と不正判定で朝鮮人学生の恨みを買った。実力で優勢だった東萊中学校(朝鮮人学校)を排除して、釜山中学校(日本人学校)を優勝させたからである。審判長は慶南地区衛戍司令官及び釜山地区兵站司令官を受け持っていた乃台兼治大佐だった。東萊中学と釜山二商の学生を主軸にした朝鮮人学生は、閉会式の厳粛な雰囲気破って、「いんちき審判を取消して民族差別をなくせ」「なにが内鮮一体か」などの掛け声を叫んで抗議絶叫した。そして日本の国歌を斉唱する時に朝鮮民謡などを歌って応酬し、天皇陛下万歳を三唱する時「ぜんざい」(万歳を揶揄する学生の隠語)と叫んで対抗した。そして日本人学生に投石と殴打を始め、場内は修羅場になった。日本の警察と憲兵も氣勢に押されて制止できなかった。日本人将校と官吏は大部分逃走した。朝鮮人学生は「朝鮮独立万歳」「日本の奴らを殺せ」などと叫んで市内を行進し、乃台兼治大佐の官舎を襲撃して窓と家具などを破壊した。この事件で朝鮮人学生2百人余りが検挙され、15人が「暴力行為処罰に関する法律違反」の罪名で拘禁送致され、二審まで行って11人が懲役8ヶ月を宣告された。そのうち2人は満期出獄後1ヶ月もたたないうちに獄中で死亡した。学校で処罰を受けた学生は東萊中学が73人、釜山二商が32人だった。所謂「乃台事件」が終結した後も、東萊中学などでは皇国臣民の錬成に抵抗する動きが絶えなかった。天皇と皇后の写真を収納した「奉安殿」の前に大便をした罪で捕まり1年6ヶ月服役した学生もいて、「朝鮮独立党」「殉国党」等の秘密結社を作って総督の暗殺、軍事施設破壊、軍用列車爆破、日本人集団居住地放火などを計画するが検挙され、解放まで監獄暮らしをした。このように、朝鮮人の中には皇国臣民の錬成に屈服せず最後まで抵抗し、朝鮮人としてのアイデンティティを固守した場合も多かった¹⁴¹。

4. 結び

日本は中日戦争以後戦局が拡大していくにつれ、国家総力戦というスローガンを掲げて朝鮮の人力と物資を総動員した。すなわち国家が戦争を遂行するという名目で物的資源の生産と人的資源の能力を量と質の面で最大限拡充・開発し、強制的に動員・配置したのである。「国家総動員法」はこれを支援するための法律的装置で、「国民総力朝鮮連盟」などはこれを推進するための官民動員運動だった。

日本は国家総力戦を効率的に遂行するためには、これに積極的に協力することのできる新しい人間型を作りださなければならなかった。国家総力戦が要求する人間型は、高度な軍事力と労働力を支えることのできる身体条件と科学技術能力及び精神力を備えた人間だった。その中でも特に天皇のためによるこんで奉仕し、命を捨てることのできる「皇国臣民」、これこそ最も望ましい人間型だった。そして日本は従来抑圧と搾取及び差別の対象だった「朝鮮人」を、「八紘一宇」の聖戦

¹⁴⁰ これについての詳細な内容は、釜山学生抗日義挙記念論集編纂委員会、1992『釜山学生抗日義挙の再照明(釜山学生抗日義挙の再照明)』を参照のこと。

¹⁴¹ 植民統治末期の秘密結社運動などの全般的状況については、변은진(ピョン・ウンジン)、2001「日帝末秘密結社運動의 展開과 性格, 1937-1945(日帝末秘密結社運動の展開と性格, 1937-1945)」『韓国民族運動史研究』韓国民族運動史研究会を参照のこと。

イデオロギーに透徹した「日本人」に改造する政策を大々的に推進した。その方法として打ち立てたのが、まさに「皇国臣民の錬成」というスローガンだった。

当時朝鮮社会を風靡した「錬成」という言葉は、日本型の国家総力戦状況と結びついて、不撓不屈の姿勢で皇国臣民の資質を磨きあげ、内鮮一体の理想を実現するという意味で広く使われた。日本は朝鮮人を皇国臣民に錬成するために、経済・労務・思想などの面で各種統制法令を発布して、朝鮮総督府の機構を簡便化・集中化する方向に改編し、国民精神総動員運動朝鮮連盟・国民総力運動朝鮮連盟・朝鮮国民義勇隊などを利用し、大々的に国民運動を展開した。そして学生・青年・労働者・農民・女性・官公吏などを修練道場に受け入れて特別錬成を実施したりもした。そして錬成という言葉が猛威を振るった期間は5-6年に過ぎないが、朝鮮人は民族としてのアイデンティティを喪失するほどの危機を体験した。すなわち、やむをえず皇国臣民に変身する振りをしなければならなかったのである。

しかしどれほど強度の高い錬成が実施されたとしても、朝鮮人が額面通り皇国臣民になったのではなかった。朝鮮人は状況によって協力・同化・逸脱・抵抗などの方法で錬成運動に対応しながら、自身の生を守っていった。そして日本が敗戦するやいなや、朝鮮人は直ちに日本人とは別の民族としてのアイデンティティを回復できた。ただし錬成の趣旨があまりにも広範で、またその方法が非常に強烈だったために、皇国臣民の錬成が一場春夢で終わっただけではすまなかった。朝鮮人が錬成で体得した思考・技能・態度・行動などは、南北分断国家の建設過程で必要によって選択的に活用された側面もある。今日までも南北韓で膾炙されている植民地の残滓というものが、大部分が皇国臣民の錬成と関連した事案という点に注目する必要がある¹⁴²。

¹⁴² 鄭根植、2004.1「植民地支配・身体規律・『健康』」『生活の中の植民地主義』人文書院、で筆者と類似した見解を披瀝した。

批評文(森山茂徳)

本研究は、国家総力戦体制期の1937年から45年にかけて推進された総動員と皇国臣民化政策を、「錬成」という教育・政策目標に注目し、その実態を分析したものである。

まず序文で、本研究の視角・方法が提示され、また「錬成」という概念が朝鮮では「朝鮮人を日本人にする」、「皇国臣民に改造する」という意味で使われ、至上の目標とされたと指摘され、解放後にも影響が残ったため、この動態的概念の活用は適切であると表明される。以下、その目指した人間像、および、それへの朝鮮人の対応が詳細に論じられる。強調点は以下の通りである。

第一に、国家総力戦が必要とする人的資源が「道具型の人間」であり、その強化は皇国臣民の「錬成」を通じて成し遂げられると考えられたが、それは容易なことではなかった。

第二に、「錬成」の目指した人間型とは、「高度な軍事力と労働力を支えることのできる身体条件と科学技術能力及び精神力を備えた人間」、「天皇のためによるこんで奉仕し、命を捨てることのできる『皇国臣民』」であり、それを育成する方法が「陶冶錬成」という人間改造であった。

第三に、「錬成」運動が、愛国日行事、国民生活日、愛国班常会、大詔奉戴日、錬成日と変遷を経た錬成日に、誓詞提唱など多様な行事が行われたが、やがてすべての規制は無意味となった。

第四に、「錬成」運動は社会の様々な構成者を対象に実施された。第一次対象たる学生には「皇国の道」への帰一が求められたが内容は無制限的拡大の途を辿り、青年には特別錬成所で徴兵・徴用を展望しながら実施され、労働者には勤労報国運動および一般錬成と特別錬成という方法によって徹底した訓練・動員がなされ、農民は農業報国青年隊として皇国農道昂揚運動および日本農村研修に動員され、女性は母親教育および農民中堅婦人訓練の対象となり、そして官公吏も指導者錬成所で修養錬成に従事した。こうして、「錬成」運動は部門別に深化した。

第五に、朝鮮人の対応は協力、同化、逸脱、抵抗に分けられ、実例として、協力では各道知事の住民強要と合理化が、同化では青年の内鮮一体への努力が、逸脱では朝鮮人学生の怠慢および統制法令違反が、抵抗では中学校の集団抵抗が挙げられ、多様であった。

そして、朝鮮人は「錬成」によるアイデンティティ喪失の危機を体験したが、結局は皇国臣民にならなかった。しかし、それが広範だったため植民地残滓が残ったことに注目すべきである。

以上のように、本研究は日本が実施した総動員政策を、「錬成」という行動に注目して資料的制約にもかかわらず視角を限定して分析したため、本格的な研究が少ない分野における貴重な研究となったといえよう。それは「錬成」が意識と生活の次元において日常的な行動そのものであったためであろう。しかし、問題点が全くないわけではない。それらは次の通りである。

第一に、確かに「錬成」が覆う政策および行動様式が国家総力戦体制期の典型であり、代表的なものであったとしても、それが他の支配・統治政策と論理的・現実的の両面でそれぞれどのような関係にあったかは、必ずしも明瞭でない。例えば、「錬成」は「創氏改名」などの皇国臣民化政策と補完的であったのかなど、論理的に明確とは言いがたい。一貫性を強調することと同時に、相違点や構造的特性を指摘することも重要であろう。さらに、総督を始めとする総督府の担当者たちは、本気で「錬成」を考えたのか、彼らは朝鮮人を日本人化できると考えたのか。

もし、朝鮮人の日本人化が可能と考えたとすれば、それは従来の統治政策とくに「同化政策」とどう関係するのか。同じだとすれば新たな概念の使用の意味は何か、違うとすれば「同化政策」と矛盾しないのか。それは日本の統治政策のあり方そのものを問うことになる。何故なら、「同化政策」と他の政策との論理的・現実的関連は、両立する場合もあればしない場合もあるからであり、総じて日本の指導者たちは結論を出さずに官僚的に対応してきたと考えられるからである。

第二に、資料的制約もあろうが、『錬成』の実態解明という視点からみると、些か隔靴搔痒の感がある。日本側の資料から実態を再構成する以上、計画段階に関する資料が多用されるため、実施の実態がどの程度解明されるか疑問をもたざるをえない。日本側の意図と実際の結果とは同じであったのか、違うのか。いずれにせよ、その原因・理由は何か。疑問は多い。

この点、やはり統治政策全体の考察が必要であり、その中における「錬成」の位置づけがなされなければならないであろう。行事名の頻繁な変化は政策担当者が真剣に考慮した結果なのか、あるいは官僚的統治行為の日常的・行政的行動様式の産物なのか、疑問である。しかも、その場合、官僚的統治行為と他の政策的行動との関連も問題とせざるをえないであろう。

第三に、朝鮮人の対応を分類・区別する基準は、些か曖昧の感が否めない。「錬成」という行動様式に即して分類・区別するとしても、より学問的に操作可能な客観的な基準が必要ではないか。これに関して言えば、一般に近代化への行動様式の分類基準としては、例えば、丸山真男の提示した図式がある。これは権力との距離と集団化の程度(凝集性)という基準から、4つの類型に分類する。勿論、他に説得力のある有意な分析枠組と分類基準があれば良いが、明確な基準なしに分類・記述すれば、恣意的と評価されてしまう危険がある。もし、適切な基準がないとすれば、それが何なのか論議し合い、共同研究という相互作用の場で追究していくことが望ましい。

執筆者コメント

私の論文に対する森山教授の要約と論評は正鵠を得ている。いくつかの質問に対する回答は以下の通りである。

第一に、「錬成」は戦時体制期に朝鮮人を真の日本人、すなわち天皇のために物だけでなく、身体と心を惜しまずに捧げられる皇国臣民へと改造しようという国家事業であった。それは従来の同化政策を引継いだ側面もあるが、国家総動員という特殊な状況において新たに進められた人間改造プロジェクトであった。総督を始めとする日本人当局者は「錬成」の成功と効果に対し半信半疑でありながら仕方なく「錬成」を限りなく拡大していった。第二に、「錬成」は極めて具体的かつ全面的に実施された。全朝鮮人の国民運動だけでなく、各界各層の部門運動、日常の生活運動のみならず道場での修練運動など、多彩に展開されていった。戦争末期には「錬成」が余りに広範囲へ広がったために、かえってその独特な役割が曖昧なものとなることもあった。第三に、私は「錬成」に対する朝鮮人の多様な対応を、協力・同化・逸脱・抵抗へと分類して考察した。そうした分類が戦時総動員体制期の朝鮮人の生のあり方を理解するうえで助けになると考えているが、分類の基準が厳格ではないという指摘を甘受するしかなかった。その他にも森山教授には「錬成」と他の支配政策との相関関係についての説明が明瞭でなく、日本の政策意図と実際の結果との乖離如何についての考察が不十分だということを指摘された。うなずける助言である。実証史料の不足や理論構成の未熟などを韓日両国の共同研究を通じ補完していくことが望ましいとの提言に全的に同意する。